

摂南大学大学院農学研究科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析・・・P 2
 - (イ) 地域・社会的動向等の現状把握・分析・・・P 2
 - (ウ) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等・・・P 3
 - ① (ア) や (イ) で分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか
 - ② 定員設定の理由
 - ③ 今、学部等を新設しなければならない理由
 - ④ 新設学部等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠
 - (エ) 学生確保の見通し・・・P 4
 - A. 学生確保の見通しの調査結果
 - B. 新設学部等の分野の動向
 - C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等
 - D. 競合校の状況
 - E. 既設学部等の学生確保の状況
 - F. その他、申請者において検討・分析した事項
 - (オ) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・P 9
- (2) 人材需要の動向等社会の要請
 - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・P 11
 - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠
・・・P 11

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本大学は昭和50(1975)年の開学以来、現在は理工学部、国際学部、経営学部、薬学部、法学部、経済学部、看護学部、農学部、現代社会学部(令和5年4月開設)の9学部17学科、薬学研究科、理工学研究科、経済経営学研究科、法学研究科、国際言語文化研究科、看護学研究科の6研究科(令和5年度)を設置し、学部には9,187人、大学院研究科に116人の学生が在籍(令和4年5月現在)している。この間、本大学は一貫して、教育の理念「人間力と実践的能力をもち、多様な人々と協働して社会に貢献できる人材を育成する。」を基本に捉えた、全人教育および専門教育を行ってきた。

2037年までの長期ビジョンとして「新たな価値を創造し続ける『知と人材の拠点』として広く認知される総合大学となる。」の将来像を掲げている。さらに、①たゆみない教育改革と組織改革により、学生・教職員の人間力と実践的能力を圧倒的に高めること、②産官学連携事業・研究を強化し、新たな「知の創出と人の交流の拠点」を構築することにより、総合大学としての社会貢献度を高めること、③長期的かつ安定的学生確保に資する変革に挑戦し、財政基盤を持続的に強化すること、の3点を本大学の長期目標として設定している。これらは端的には、教育の質保証と人材養成、研究の強化と地域社会への貢献、学生の確保と言い換えることも可能であり、これらの3点が、多様な学部学科を持つ総合大学である本大学が、18歳人口の減少や大学全入時代となった現在において認識している主要な課題である。

より詳細なレベルでは、現在大学として取り組むべき課題は、「初年次教育と教養教育の改革」である。具体的には、初年次教育では数学、データサイエンス、日本語表現力、使える英語等の強化、教養教育ではアクティブ・ラーニング型授業化、副専攻課程化を推進するほか、キャリア形成支援等と認識している。

また、教育力に加えて社会実践型連携研究の強化にも取り組んでいる。大学として取り組むべき連携研究の拠点である研究所などに対する支援強化を図るとともに、レベルの高い連携研究を創出するための研究力の強化策の検討を進めている。

「食」と「農」の教育研究を行う農学研究科の開設により、本大学はその教育研究と人材養成によりさらに地域社会に貢献することができると考えている。今後、さらに学生募集環境が厳しくなることが予想されるが、「学生の成長第一主義」を志向し、教育の理念で謳う「人間力」と「実践的能力」を高めることに注力することで、選ばれる大学となることを目指し変革を続けていく。

(イ) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

農業生産と食料供給は、地球規模の課題であると同時に、地域社会においても、様々な課題が存在する。本大学が立地する大阪府および近畿地区においては、都市農業、近郊農業が主であるが、農業後継者の育成、地域特産品の維持・普及、新たな農産加工品の開発や流通システムの構築、需要創造による地域の活性化の必要性など、「食」と「農」に関係する多くの課題が山積している。本大学では既に令和2年の農学部の開設以来、地元の行政・団体・農家等との連携を推進しており、地域の農産物を使用した商品開発などの実績を多く重ねている。本研究科の開設は、こ

れまでの「食」と「農」に関わる地域連携と地域貢献をより高度に推進するものであり、地域が抱える課題解決に資するものと考えている。

(ウ) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

① (ア) や (イ) で分析した課題に対して新設学部等がどのように貢献できるのか

農学研究科の開設による農学系の教育研究の伸長と深化は、上記 (ア) (イ) で述べた本大学が抱える課題を解消することが期待される。一つには、「食」と「農」に係る地域連携と地域貢献がさらに増進される点、一つには、農学研究科において農学系の研究がより一層推進されることで、本大学の研究成果を社会に還元し、地域社会の発展に寄与する点、一つには、グローバルレベル、我が国全体のレベル、地域社会レベルの全てにおいて、農学分野に寄せられた期待は大きく、本研究科における人材養成と教育研究を通じて、現代社会が抱える「食」と「農」の課題の解決に直接的、間接的に貢献することが可能である点が挙げられる。

② 定員設定の理由

本研究科の入学定員は、博士前期課程が20人（収容定員40人）、博士後期課程が3人（収容定員9人）であり、以下の理由により適切な定員設定と考えている。

博士前期・後期課程は4領域で構成し、専任教員（研究指導教員、研究指導補助教員）は博士前期課程で47人、博士後期課程で46人の体制である。教員1人あたりの学生数は博士前期課程で0.9人（=40人÷47人）、博士後期課程で0.2人（=9人÷46人）となり、丁寧できめの細かい研究指導が可能になると考えている。

また、博士前期課程、博士後期課程とも、別に述べる入学意向アンケート調査により、入学定員を超える入学ニーズを得ていることから、本研究科の定員は、教育研究の質保証と、入学ニーズをともに担保した設定としている。

③ 今、学部等を新設しなければいけない理由

研究科設置の理由は以下の通りである。

- 1) 本大学の農学部4学科は令和2年の開設以来、順調にその教育研究と地域貢献を推進しており、教育研究実績も着実に蓄積している。農学系分野においては、学部からの一貫的、発展的な大学院における人材養成と教育研究の推進が極めて重要であり、本研究科の設置もその趣旨によるものである。
- 2) 本大学の農学部は令和5年度に完成年度を迎え、一期生となる卒業生を輩出する予定である。入学意向アンケート調査（学内）【資料1】により、同学部の在学学生からは、全ての学年において一定数の大学院進学希望者が存在し、本研究科の設置はそれらの内部進学ニーズに応えるものである。
- 3) 学外の学部卒業者、大学院修士課程修了者向けの入学意向アンケート調査【資料2】において、一定数の大学院進学ニーズ、本研究科への進学ニーズが認められた。本研究科の開設は、社会人等の学外者からの農学系大学院への進学ニーズにも応えるものでもある。

④新設学部等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

入学者の学費負担を最大限に考慮しつつ、充実した教育研究を可能とし、継続的かつ安定的な研究科運営が可能となる学生納付金の水準について十分な精査を行った結果、学生納付金を以下の通り設定した。

摂南大学大学院 農学研究科 学生納付金（※諸会費等は除く）		
博士前期課程	入学金	150,000 円
	授業料等	950,000 円
	初年度納入金	1,100,000 円
	2年間納入金合計	2,050,000 円
博士後期課程	入学金	220,000 円
	授業料等	900,000 円
	初年度納入金	1,120,000 円
	3年間納入金合計	2,920,000 円

※学内進学者は博士前期課程、博士後期課程とも入学金の半額を減免する。

本研究科が競合すると予想される、近畿地区の主要な農学系研究科の学生納付金は【資料3】に示す通りである。そこに挙げた近畿大学大学院および龍谷大学大学院の2研究科の初年度納入金は、ともに約115万円となっており、本研究科の初年度納入金は、博士前期課程、博士後期課程ともにやや低い学納金設定となっている。以上の比較により、本研究科の学生納付金水準は、学生の経済的な負担を考慮した、学生募集面でも競争力をもった設定となっている。

【資料1】 入学意向アンケート調査報告書（摂南大学農学部 在学生）

【資料2】 入学意向アンケート調査報告書（学外インターネット調査）

【資料3】 近畿地区の農学系研究科の学生納付金

（エ）学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

本研究科の入学ニーズを測定するため、以下の入学意向アンケート調査を行った。それぞれの調査結果の概要は以下の通りである。

1) 農学部在学生向け入学意向アンケート調査

調査目的	摂南大学大学院農学研究科（博士前期課程）への入学意向調査
調査時期	令和4年10～11月
調査対象	摂南大学農学部在学生（1～3年生）
調査方法	大学において紙によるアンケート
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科（博士前期課程）への受験・入学意向 ・同研究科博士後期課程への進学意向

回答件数	合 計 869 人 3 年 生 : 275 人 2 年 生 : 259 人 1 年 生 : 335 人
調査結果の概要	(3 年生) 大学院への進学意向を示した者 : 49 人 (17.8%) 本研究科への受験意向を示した者 : 32 人 (11.6%) 本研究科への入学意向を示した者 : 16 人 (5.8%) (2 年生) 大学院への進学意向を示した者 : 46 人 (17.8%) 本研究科への受験意向を示した者 : 29 人 (11.2%) 本研究科への入学意向を示した者 : 4 人 (1.5%) (1 年生) 大学院への進学意向を示した者 : 54 人 (16.1%) 本研究科への受験意向を示した者 : 27 人 (8.1%) 本研究科への入学意向を示した者 : 11 人 (3.3%)

本大学農学部在学学生を対象とした調査【資料1】として、本研究科への入学意向を測定した。3学年ともに、約17%の学生が大学院進学を希望しており、10%前後の学生が本研究科（博士前期課程）への受験意向を示している。進路が明確になってきている3年生については、16人（5.8%）が受験および入学意向を示している。本研究科（博士前期課程）の入学定員は20人であるため、入学定員の半数以上の過半数を、同学部（入学定員340人）からの進学者で満たすことが可能であることが示されている。

2) 学外向け入学意向アンケート調査

調査目的	摂南大学大学院農学研究科（博士前期課程・博士後期課程）への入学意向調査
調査時期	令和4年10月
調査対象	・農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業者 ・同系の大学院修士課程修了者または在学者
調査方法	調査会社によるインターネットを利用したアンケート
調査内容	(対象：学部卒業者) ・大学院 修士課程への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科（博士前期課程）への受験・入学意向 (対象：修士課程 修了者) ・大学院 博士後期課程への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科（博士後期課程）への受験・入学意向
回答件数	合 計 1,101 人 学部卒業者 : 1,004 人 修士課程修了者 : 97 人
調査結果の概要	(学部卒業者) 大学院（修士課程）への進学意向を示した者 : 99 人 (9.9%) 本研究科博士前期課程への受験意向を示した者 : 72 人 (7.2%) 本研究科博士前期課程への入学意向を示した者 : 40 人 (4.0%)

	(修士課程修了者)
	大学院（博士後期課程）への進学意向を示した者：19人（19.6%）
	本研究科博士後期課程への受験意向を示した者：15人（15.5%）
	本研究科博士後期課程への入学意向を示した者：10人（10.3%）

インターネット調査会社による調査【資料2】で、近畿地区在住の「農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業者」、「農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学院修士課程修了者」を対象として本研究科への入学意向を測定した。これらは本研究科への入学が可能となる学問分野である。

大学院修士課程への進学意向は9.9% (n=1,004)、博士後期課程への進学意向は19.6% (n=97)と、大学院への進学ニーズが非常に高いことが確認できた。

本研究科博士前期課程への受験・入学意向については、上記の分野の学部卒業者1,004人のうち40人（4.0%）が受験意向かつ入学意向を示した。博士前期課程（入学定員20人）については、上記の本大学農学部在学生の入学ニーズと合わせて、十分な入学ニーズが確認できた。

本研究科博士後期課程への受験・入学意向については、上記の分野の大学院修士課程修了者97人のうち10人（10.3%）が受験意向かつ入学意向を示した。博士後期課程（入学定員3人）についても、学外の修士課程修了者において、十分な入学ニーズが存在することが確認できた。これは、本研究科が博士前期課程、博士後期課程を同時設置することの根拠となるデータでもあると考えている。

B.新設学部等の分野の動向

全国の私立大学院、農学系研究科の過去5年の学生募集状況により、農学系分野の動向を確認した。

私立農学系大学院修士課程の募集状況

年度	研究科数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
令和4年度	26	699人	979人	869人	813人	116.3%
令和3年度	24	681人	884人	752人	694人	101.9%
令和2年度	21	697人	786人	695人	646人	92.7%
令和1年度	20	690人	772人	669人	616人	89.3%
平成30年度	20	690人	811人	704人	652人	94.5%

出典：日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」

博士前期課程は、研究科数、入学定員、志願者数、入学者数ともに増加しており、充足率も94.5%（平成30年度）から116.3%（令和4年度）と順調に推移している。

私立農学系大学院博士後期課程の募集状況

年度	研究科数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
令和 4 年度	23	180 人	120 人	114 人	109 人	60.6%
令和 3 年度	22	180 人	87 人	82 人	78 人	43.3%
令和 2 年度	20	200 人	108 人	101 人	96 人	48.0%
令和 1 年度	19	197 人	120 人	110 人	105 人	53.3%
平成 30 年度	18	195 人	133 人	128 人	126 人	64.6%

出典：日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」

博士後期課程は、研究科数は増えているものの、入学定員、志願者数、入学者数はやや減少している。入学定員充足率は 40%から 60%の間で推移している。本研究科の入学定員は 3 人と最少水準に設定しており、定員設定に問題はないと考えている。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本研究科は大学院であり、その入学者の層や年齢は社会人も含めて多様であるため、18 歳人口減少の影響はやや緩和されるが、本研究科の基礎となる学部であり、本研究科の入学者の多くを輩出するであろう本大学の農学部は、人口減少の影響を直接的に受ける。中央教育審議会の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成 30 年 11 月）によれば、2040 年の大学進学者数は 51 万人と推計され、2017 年対比で約 80%（12 万人減少）の規模に減少すると推計されており、本研究科が立地する大阪府においても同様の推計となっている。

本研究科では、以下の方策により人口減少への対応を図る。

1) 本大学農学部の志願者および入学者の確保

教育研究の質保証および卒業後の就職に注力することで、農学系学部としての地位を確立し、高校生から選ばれる学部となる。

2) 社会人の志願者および入学者の確保

今後国内外において大学院教育の比重、大学院への進学希望が高まることが予想されることから、幅広い社会人の受け入れに努める。そのために社会人が学びやすい環境整備に努める。

D. 競合校の状況

本研究科（大阪府枚方市）の競合校としては、近畿大学大学院農学研究科（奈良県奈良市）、龍谷大学大学院農学研究科（滋賀県大津市）を想定している。学部と研究科の領域構成、規模も似ており、学生の水準も近いと考えている。

（博士前期課程）

近畿大学大学院農学研究科博士前期課程（収容定員 112 人）は、過去 5 年の収容定員充足率【資料 4】が 1.22 倍（平成 30 年度）→1.25 倍（令和 1 年度）→1.36 倍（令和 2 年度）→1.57 倍（令和 3 年度）→1.71 倍（令和 4 年度）と推移しており、平均すると約 1.4 倍の充足率となっており、博士前期課程への強い進学ニーズが伺える。

龍谷大学大学院農学研究科修士課程（収容定員 60 人）は、過去 5 年の収容定員充足率【資料

4】が0.20倍（平成30年度）→0.45倍（令和1年度）→0.73倍（令和2年度）→0.70倍（令和3年度）→0.75倍（令和4年度）と推移しており、一定数の入学者数が確保できている。

（博士後期課程）

近畿大学大学院農学研究科博士後期課程（収容定員51人）は、過去5年の充足率【資料4】が0.35倍（平成30年度）→0.27倍（令和1年度）→0.23倍（令和2年度）→0.19倍（令和3年度）→0.19倍（令和4年度）と推移しており、平均すると約0.25倍の充足率となっている。こちらは入学定員が17人とやや大きく設定されていることが充足率の低さとなっていると考えられる。

龍谷大学大学院農学研究科博士後期課程（収容定員15人）は、過去5年の収容定員充足率【資料4】が1.80倍（平成30年度）→1.40倍（令和1年度）→1.26倍（令和2年度）→1.00倍（令和3年度）→1.00倍（令和4年度）と推移しており、博士後期課程の定員を満たしている。

本研究科（博士前期課程 収容定員：40人、博士後期課程 収容定員：9人）はこれらの競合校よりも規模が小さいため、定員の充足は十分に可能と考えている。

【資料4】近畿地区の農学系研究科の収容定員充足状況

E.既設学部等の学生確保の状況

本大学の大学院各研究科の学生確保の状況は【資料5】に示す通りである。詳細は資料に示し、以下には各研究科、専攻の収容定員の充足状況を示す。本大学においては現在6研究科を開設しており、理工学研究科の2専攻は博士後期課程を開設している。文系の3研究科は充足率が低いものの、理工学研究科では創生工学専攻（博士後期課程）を除き収容定員を充足している。農学系である本研究科は、研究分野が近い理工学研究科と類似した充足率になると考えている。

摂南大学大学院 既設研究科の収容定員充足率

研究科	専攻	博士前期課程		博士後期課程	
		収容定員	収容定員充足率	収容定員	収容定員充足率
薬学研究科	医療薬学専攻[博士課程]	—	—	16人	0.62倍
理工学研究科	社会開発工学専攻[博士前期課程]	24人	1.33倍	—	—
	生産開発工学専攻[博士前期課程]	24人	1.00倍	—	—
	生命科学専攻[博士前期・後期課程]	20人	1.40倍	6人	1.00倍
	創生工学専攻[博士後期課程]	—	—	6人	0.16倍
経済経営学研究科	経済学専攻[修士課程]	10人	0.20倍	—	—
	経営学専攻[修士課程]	10人	0.30倍	—	—
法学研究科	法律学専攻[修士課程]	10人	0.00倍	—	—
国際言語文化研究科	国際言語文化専攻[修士課程]	10人	0.00倍	—	—
看護学研究科	看護学専攻[修士課程]	12人	0.83倍	—	—

※令和4年5月現在。充足率は小数点第3位切り捨て

(充足率が0.7倍未満の既設大学学部等の状況)

摂南大学には現在、収容定員充足率が0.7倍未満の学部学科はないが、本学園が設置する広島国際大学健康科学部医療福祉学科において、過去3年間の平均収容定員充足率が0.61倍で、0.7倍未満となった。

当該学科は、健康・医療・福祉分野の学部教育の充実と発展を図ることを目的として、医療福祉学部、医療経営学部、心理学部、医療栄養学部を発展的に統合し、令和2年4月に健康科学部医療福祉学科、医療経営学科、心理学科、医療栄養学科として改組したものである。

開設にあたって健康科学部医療福祉学科の定員規模の在り方について、大学内において検討を行った結果、高齢化の更なる進展に伴う福祉・介護需要が確実に増加していく中で、日本国内における福祉・介護人材の量的および質的な確保は重要な課題であり、福祉・介護人材を安定的に輩出することは、当該大学の使命であるとともに、地域福祉の推進に寄与するものでもあることから、当面の間、改組前の医療福祉学部医療福祉学科の入学定員100人を維持することとし、学生募集戦略の強化による学生確保を目指すこととした。

しかしながら、福祉・介護現場における他職種との賃金格差や昇給等の賃金処遇の問題、労働時間や労働環境の問題、キャリア展望の不透明さ等、福祉・介護職としての卒業後の進路に対する不安が大きく影響しており、状況が改善されていない。

【資料5】摂南大学大学院 既設研究科の学生募集状況

F.その他、申請者において検討・分析した事項

特になし

(オ) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本研究科は、①本大学農学部の卒業生、②他大学の農学系学部・修士課程の卒業・修了予定者、③社会人（農学系学部卒業生、修士課程修了者）を対象として学生募集活動を行う。本研究科は農業生産科学、応用生物科学、食品栄養科学、食農ビジネス学の幅広い領域を擁するため、農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系等の学部・修士課程の卒業・修了者を幅広く受け入れる予定である。学生確保についての具体的な取組は以下に示す。

1) 本大学農学部在学学生に対する進学説明会等（学内向け：博士前期課程）

本大学農学部および既設学部の在学学生に対しては、入学時より卒業時に至るまで、継続的に本研究科の情報提供を行い、必要な情報を全て伝達する。大学院への進学意欲を持つ者には、指導教員等から必要な準備や費用、求められる学力水準、選抜方法等について適切な助言と指導を行い、指導教員と学生との個別の面談の機会を設定する。毎年度実施しているオリエンテーション、キャリア・就職関係の説明会においても、本研究科を含む大学院への進学の説明を継続的に行い、大学院進学が卒業後の進路の選択肢の一つとなるように、適切な指導を行う。

2) 個別相談会（学外向け：博士前期・後期課程）

学外からの志願検討者については、指導教員候補による個別相談会を実施し、検討者が希望する研究内容についてヒアリングを行い、研究と進学に向けた助言を行う。相談会はオープンキャンパス等に合わせた定期的な開催と、随時実施する不定期な開催の2種類を予定している。

3) オープンキャンパス（学外向け：博士前期・後期課程）

学部のオープンキャンパスと同時に、本研究科のオープンキャンパスも実施する。オープンキャンパスにおいて、教員との個別面談、必要な書類等の配布、情報の提供、研究施設の見学等を行い、来場者の志願につなげる。

4) 関係事業所への広報（学外向け：博士前期・後期課程）

本大学農学部が関係する農業・食品・化学・給食・流通系企業、病院（管理栄養士）、自治体、等には、本大学から直接、本研究科のリーフレットや学生募集要項の配付等を依頼し、事業所の職員の志願、入学につなげる。

5) 本大学HP、リーフレットおよび各種媒体への掲載（全対象者：博士前期・後期課程）

本大学HPおよびリーフレットには、具体的な研究内容や研究指導教員など、本研究科の情報を掲載し、出願者が必要となる情報を全て提供する。また大学院の情報を掲載する雑誌、書籍、情報WEBサイトには、本研究科の情報を出稿、掲載し、農学系大学院への進学を検討する全ての層に本研究科の情報が伝わるように努める。

6) 充足率が0.7倍未満の既設大学学部等の学生確保に向けた取組

収容定員充足率が0.7倍未満となっている本学園が設置する広島国際大学健康科学部医療福祉学科については、「福祉分野の志願者の確実な志願獲得」「福祉興味層の新規開拓」「留学生の確保」を3つの課題として掲げ、広報活動を行った。

具体的には、広島県、山口県、島根県を重点に置いた独自奨学金等資金支援制度の強化、福祉の魅力向上に向けた高大連携および行政機関との連携の実施、日本語学校からの留学生確保を念頭に置いた学校訪問等を行ったが、状況は改善されていない。

今後は令和6年4月に学科を再編することを目指しており、社会福祉学の学びに加え、社会学の学びを深めていくことで、現代社会が抱える多様な地域課題の解決を図ることのできる人材の養成を行うこととし、状況の改善を図る。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

摂南大学大学院農学研究科農学専攻は、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や地域社会および国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(博士前期課程)

博士前期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人を養成する。

(博士後期課程)

博士後期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を深く修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や学問の深化と発展に貢献するための自立した研究遂行力を備えた高度な専門技術者および研究者を養成する。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本研究科が養成する、「食」と「農」についての高度な専門知識と技術を兼ね備え、国内外の「食」と「農」に関わる諸問題の解決に貢献できる人材の必要性について、その具体的な人材需要について以下にて説明する。本研究科は、博士前期課程、博士後期課程の2課程を4領域で編成しているが、同一の専攻として共通の養成人材像を掲げている。博士前期課程では実践的な高度専門職業人、博士後期課程では高度な専門技術者、研究者の養成に重点を置くものの、研究科および専攻としての人材養成の方針は、「食」と「農」の課題解決に貢献しその発展に寄与できる人材という点において、4領域を通じて単一かつ同一である。

1) 我が国を取り巻く「食」と「農」に係る人材需要

我が国の農業においては、企業の農業参入、ロボット技術・ICT（情報通信技術）・AI（人工知能）を活用した新たな農業への試みがなされるなど、技術的イノベーションの兆しがみられ、「食」と「農」を取り巻く環境は大きく変化している。国内では、少子高齢化と人口減少に伴う農業就業者の減少と高齢化、食料自給率の低下と食生活の変化、耕作放棄地面積の増大、食品ロス、貿易自由化と食の安全性、国際情勢による食料危機と食料価格の高騰、高齢化や食生活に起因する国民医療費の増加と対策など、「食」と「農」には様々な課題がある。一方で平成26年8月に発表された「「攻めの農林水産業」の実現に向けた新たな政策の概要（第2版）」（農林水産省）にも挙げられている通り、我が国の農業は、農山漁村の持つ潜在力、世界的な日本食の広がり、農林漁業の6次産業化やICT技術の農業への活用等を通じて、農林水産業の成長産業化と地域経済の活性化の大きな可能性を有している。本研究科で養成する人材は、その実践力と研究能力を通じてこれらの課題解決と産業の発展に貢献することを目的としており、「食」と「農」の各業界か

らの人材需要は高いと言える。

2) 地球規模の「食」と「農」の持続可能性に係る人材需要

現在、世界においては、「食」と「農」の持続可能性は生活に直結する重要課題であると言える。平成27年に国際連合において、17の目標からなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」が採択されたが、その中には「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」、「全ての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」、「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」、「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」、「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、並びに生物多様性損失の阻止を図る」等の、「食」と「農」に関わる目標が多く設定されている。これらの目標達成のためには、高度な専門知識と実践力、さらに高度な研究能力を持つ専門人材が必要であり、本研究科で養成する人材は、これらの地球規模での人材需要に応えるものである。

3) 農業生産科学領域における人材需要

我が国の農業は、攻めの農林水産業として、食料安全保障の向上、環境と調和した持続的な農業、農林漁業の6次産業化、農水産物の輸出促進等、将来への明確なビジョンが示されており、それを支えていく農業の高度な専門的知識、実践能力、研究能力を持った人材が求められている。具体的には、農業施設・設備や農業生産資材の開発と利用、病虫害や高温・低温等の環境ストレスに強い品種育成と栽培技術の開発、高機能性・高品質作物の生産技術の開発、環境負荷の少ない防除・施肥技術の開発、省力・軽作業化、野菜等の安定的な周年供給体制の確立、持続的な農法の開発と実践、栽培環境制御技術の開発などが求められており、安心・安全で安定的な食料生産の達成のためには、大学院レベルでの実践能力と研究能力をもった人材の養成が不可欠である。本研究科の農業生産科学領域では、植物遺伝育種科学、作物科学、園芸科学、植物病理学、応用昆虫学、生産生態基盤学の6研究室で研究を推進するが、これらは我が国の農業生産業界において高度な専門人材が求められている分野である。本研究科は、その人材養成を通じて、これらの分野の大学院水準の人材需要に応えるものである。

4) 応用生物科学領域における人材需要

バイオテクノロジーの急速な発展は、「食」と「農」の産業技術に現在進行形で大きな影響を与えつつあり、さらに、様々なボーダーレス化が進む中で、「食」や「農」に関わる産業・技術にもかつてないイノベーションや知識化が進むと予想されている。現代の生物科学の急速な発展は、ゲノム科学と情報科学の融合をその基礎としている。生物のゲノム解析が急激に進み、遺伝子組み換えにより改良された農作物が既に大規模に流通し、世界の食料供給に寄与している。また、バイオテクノロジーを基盤としたバイオ産業は、酵素や医薬品生産によって世界の産業と健康を支えている。倫理面、安全面の課題はあるものの、バイオテクノロジーは、農業、食料、医療、化学にまたがる現代社会を牽引する技術分野であり、今後より一層の発展が見込まれている。さらに、バイオテクノロジーによるバイオマス

の高度利用は、環境への負荷の軽減しつつ、世界の人口増加や経済発展に対応する持続可能なバイオエコノミー社会の実現につながると期待される。バイオテクノロジー産業の各研究現場においては、技術開発の多様化や高度化に伴って、特定のバイオ技術領域に関して、精緻な作業や試験を行うことができる高度な技術人材が求められている。本研究科の応用生物科学領域では、植物分子生理学、ゲノム生物学、応用微生物学、植物環境微生物学、動物機能科学、海洋生物学の6研究室で研究を推進するが、これらは我が国のバイオサイエンス、バイオインダストリー分野において高度な専門人材が求められている分野である。本研究科は、その人材養成を通じて、これらの分野の大学院水準の人材需要に応えるものである。

5) 食品栄養科学領域の人材需要

本研究科の食品栄養科学領域では、「食」と「農」のうち「食」に重点をおいた、栄養学を中心とした教育研究を推進する。本研究科の基礎となる学部である農学部では、管理栄養士や栄養士を養成しているが、本領域では、管理栄養士や栄養士の資格保持者の受け入れを想定し、より高度な専門知識、実践能力、研究能力をもった栄養の専門職業人の養成を行い、その高度な人材需要に応える。国民の食生活においては、食生活の乱れや生活習慣病の増加、高齢者の低栄養等の栄養・食生活の問題が山積し、国民一人ひとりの病気、ライフステージ、ライフスタイル、身体機能等に応じた複合的な栄養管理や栄養指導が求められている。現在推進されている地域包括ケアシステムにおいても、管理栄養士は専門職として参画しており、病院などの医療機関のみならず介護保険施設、老人福祉施設、居宅等地域の様々な生活の場において、多職種との連携の中においても複合的な栄養管理や栄養指導を通じた健康増進、健康維持の高度な専門業務が求められている。本研究科の食品栄養科学領域では、生化学・運動生理学、食品学・食品衛生学、調理・給食経営管理、代謝栄養学、臨床栄養学、公衆衛生・公衆栄養学の6研究室で研究を推進するが、これらは我が国の食産業、栄養管理・指導、給食経営管理、医療介護分野において高度な専門人材が求められている分野である。本研究科は、その人材養成を通じて、これらの分野の大学院水準の人材需要に応えるものである。

6) 食農ビジネス学領域における人材需要

本研究科で探究する「食」と「農」は、現代においては益々不可分かつ一体的な産業分野である傾向を強めており、「食」と「農」を俯瞰的かつ総合的に捉え、経済学・経営学といったビジネスの側面から関連する産業に貢献できる高度な専門人材が求められている。

「食」と「農」の分野では、大規模経営、先端技術を活用した施設園芸、創意工夫を発揮した6次産業化や農水産物の海外輸出など、新たな価値の創出と市場の開拓が強く求められている。一方、農業就業者の高齢化や農地の荒廃など農業・農村をめぐる環境は極めて厳しい状況にあり、農林水産業を事業として次世代に引き継いでいくことが求められている。また、地球環境の持続可能性のため、循環型農業や有機農業の分野を牽引する高度な専門人材も求められている。食料・農水産物が生産され多様な食品となって消費者に届くまでには、生産・流通・加工・販売・飲食サービスなどの多様な産業主体に担われた多段階の過程を経ているが、その生産・流通・消費の過程は常に変容を続けており、「食」を取り巻くシステムを、農学・食品学・経済学・経営学等の

横断的、複合的、包括的な観点から適切に捉え、事業を推進していく高度な専門人材が求められている。本研究科では、農業の担い手の育成と確保、経営所得の安定、新規就農と人材育成、農業における女性の活躍推進、農業・農村の多面的機能の獲得、中山間地域の振興、農村における土地利用など、農業と農山漁村の再生のための、農業経営と農村振興のプロフェッショナルとしての高度な専門人材の需要にも応える。本研究科の食農ビジネス学領域では、農業経済・経営・政策、食品産業・流通、地域マネジメント、食農・循環型農業、食品マーケティング、都市・農村コミュニティビジネス研究を推進するが、これらは我が国の「食」と「農」の分野において高度な専門人材が求められている分野である。本研究科は、その人材養成を通じて、これらの分野の大学院水準の人材需要に応えるものである。

7) 農学研究科修了者の就職状況

文部科学省の「学校基本調査」（令和4年度）によれば、全国の農学研究科の修了生の就職状況は次のような状況となっている。修士課程については、農学系修士課程修了者3,748人のうち、「就職者」（2,952人・78.8%）と「進学者」（405人・10.8%）を合わせた合計は3,357人（89.6%）であり、約9割の修了生が進学または就職という結果となっている【資料6】。博士課程については、農学系博士課程修了者823人のうち、「就職者」（500人・60.8%）と「進学者」（21人・2.6%）を合わせた合計は521人（63.3%）であり、約6割の修了生が進学または就職という結果となっている【資料7】。博士課程については、研究者を目指す者はポストドクターになる者が多いため、就職者の割合はやや低い結果となっているものの、農学研究科の修了後の進路は、民間企業、公務員、各種研究所、学校、大学等の多様な就職が想定され、その人材需要は示されていると思われる。

【資料6】 農学系修士課程修了者の修了後の進路

【資料7】 農学系博士課程修了者の修了後の進路

8) 採用意向アンケート調査の結果

本研究科の修了生の人材需要の見通しを測定するため、採用意向アンケート調査【資料6】を実施した。アンケート調査は、本研究科の修了後の就職先として想定される業種（農業・バイオ・化学・食品・飲食・農協・栄養・研究所等）の1,000事業所に対し調査を依頼し、199事業所から回答を得た（回収率19.9%）。調査結果の概要は以下の通りである。

採用意向アンケート調査の結果の概要

（博士前期課程 入学定員 20人）

	設問	回答	回答数	割合
問4	事業所における農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズ	農学系修士の採用ニーズは高い	59事業所	29.6%
問7	摂南大学大学院農学研究科 博士前期課程修了生（修士）の採用意向	採用したい	59事業所	29.6%

(博士後期課程 入学定員 3人)

	設問	回答	回答数	割合
問5	事業所における農学系大学院修了生(博士)の採用ニーズ	農学系博士の採用ニーズは高い	30 事業所	15.1%
問9	摂南大学大学院農学研究科 博士後期課程修了生(博士)の採用意向	採用したい	27 事業所	13.6%

本調査において、農学研究科(仮称)の修了予定者の採用意向を質問したところ、「農学研究科 博士前期課程の修了生を採用したい」との回答が59件(29.6%)、「農学研究科 博士後期課程の修了生を採用したい」との回答が27件(13.6%)示された。さらに継続的な採用可能人数を質問したところ、博士前期課程修了生は84人、博士後期課程修了生は37人との回答結果となった。本研究科の博士前期課程の入学定員は20人、博士後期課程の入学定員は3人であるので、それを上回る継続的な採用需要があることが本調査により示された。

【資料8】採用意向アンケート調査報告書

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料 1	入学意向アンケート調査報告書（摂南大学農学部 在学生）	P 2
資料 2	入学意向アンケート調査報告書（学外インターネット調査）	P 18
資料 3	近畿地区の農学系研究科の学生納付金	P 42
資料 4	近畿地区の農学系研究科の収容定員充足状況	P 43
資料 5	摂南大学大学院 既設研究科の学生募集状況	P 44
資料 6	農学系修士課程修了者の修了後の進路	P 45
資料 7	農学系博士課程修了者の修了後の進路	P 46
資料 8	採用意向アンケート調査報告書	P 47

摂南大学大学院
農学研究科（仮称）
入学意向アンケート調査（学内）
[摂南大学農学部在学生向け]
報告書

令和5年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 調査概要	P 3
2. 集計表	P 4
①3年生（4学科）	
②2年生（4学科）	
③1年生（4学科）	
3. 結果の要点	P 10
4. クロス集計	P 12
（添付資料）	P 13
摂南大学大学院農学研究科（仮称）	
入学意向アンケート調査学内向け用紙（設問）	
入学意向アンケート調査学内向け用紙（概要）	

1. 調査概要

調査目的	「摂南大学大学院農学研究科(仮称)」(令和6年度に設置予定)における志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[学内向け調査] 摂南大学農学部の在学生(1年生～3年生/令和4年度)をアンケートの対象とした。
調査内容	・大学院への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科博士前期課程(仮称)への受験・入学意向 (すべて選択肢式)
調査時期	令和4年10月～11月
調査方法	本学学内において、教職員の監督のもと、紙のアンケートにより実施した。
回収件数	275人(3年生) 259人(2年生) 335人(1年生) 合計:869人
調査結果	(3年生) 大学院への進学意向を示した者 : 49人(17.8%) 本研究科(博士前期課程)への受験意向を示した者 : 32人(11.6%) 本研究科(博士前期課程)への入学意向を示した者 : 16人(5.8%) (2年生) 大学院への進学意向を示した者 : 46人(17.8%) 本研究科(博士前期課程)への受験意向を示した者 : 29人(11.2%) 本研究科(博士前期課程)への入学意向を示した者 : 4人(1.5%) (1年生) 大学院への進学意向を示した者 : 54人(16.1%) 本研究科(博士前期課程)への受験意向を示した者 : 27人(8.1%) 本研究科(博士前期課程)への入学意向を示した者 : 11人(3.3%)

2. 集計表

①3年生(4学科)

回答者	3年生 4学科			
問	設問	選択肢	回答数	割合/全体
問1	あなたの所属学部(学科)をお答えください。(択一)	農学部 農業生産学科	72	26.2%
		農学部 応用生物科学科	63	22.9%
		農学部 食品栄養学科	67	24.4%
		農学部 食農ビジネス学科	73	26.5%
		理工学部 生命科学科	0	0.0%
		経済学部 経済学科	0	0.0%
		経営学部 経営学科	0	0.0%
		経営学部 経営情報学科	0	0.0%
		合計	275	100.0%
問2	あなたの学年をお答えください。(択一)	3年生	275	100.0%
		2年生	0	0.0%
		1年生	0	0.0%
		合計	275	100.0%
問3	あなたの性別をお答えください。(択一)	男性	165	60.0%
		女性	110	40.0%
		合計	275	100.0%
問4	あなたは大学院への進学を検討していますか。(択一)	進学したい	15	5.5%
		可能であれば進学したい	34	12.4%
		進学は考えていない	226	82.2%
		合計	275	100.0%
問5	【問4の「進学したい」「可能であれば進学したい」回答者のみ回答】 摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程(仮称)を受験したいと思いますか。(択一)	受験したい	32	11.6%
		受験しない	17	6.2%
		合計	49	17.8%
問6	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】 摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。(択一)	入学したい	16	5.8%
		併願校の結果等の状況により入学したい	16	5.8%
		合計	32	11.6%
問7	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】 あなたが摂南大学大学院農学研究科(仮称)で専攻したい領域をお答えください。(択一)	農業生産科学領域	12	4.4%
		応用生物科学領域	14	5.1%
		食品栄養科学領域	1	0.4%
		食農ビジネス学領域	4	1.5%
		検討中のため未定	1	0.4%

		合計	32	11.6%
問8	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】 博士前期課程（修士課程）の修了後、摂南 大学大学院農学研究科博士後期課程（仮称） への進学を希望しますか。（択一）	博士前期課程の修了後すぐに進学したい	0	0.0%
		可能であれば進学したい	4	1.5%
		進学は考えていない	15	5.5%
		わからない	13	4.7%
		合計	32	11.6%

※「構成比」（％）はいずれも小数点第二位を四捨五入。

②2年生（4学科）

回答者		2年生 4学科		
問	設問	選択肢	回答数	割合／全体
問1	あなたの所属学部（学科）をお答えください。（択一）	農学部 農業生産学科	58	22.4%
		農学部 応用生物科学科	55	21.2%
		農学部 食品栄養学科	55	21.2%
		農学部 食農ビジネス学科	91	35.1%
		理工学部 生命科学科	0	0.0%
		経済学部 経済学科	0	0.0%
		経営学部 経営学科	0	0.0%
		経営学部 経営情報学科	0	0.0%
	合計	259	100.0%	
問2	あなたの学年をお答えください。（択一）	3年生	0	0.0%
		2年生	259	100.0%
		1年生	0	0.0%
		合計	259	100.0%
問3	あなたの性別をお答えください。（択一）	男性	152	58.7%
		女性	107	41.3%
		合計	259	100.0%
問4	あなたは大学院への進学を検討していますか。（択一）	進学したい	4	1.5%
		可能であれば進学したい	42	16.2%
		進学は考えていない	213	82.2%
		合計	259	100.0%
問5	【問4の「進学したい」「可能であれば進学したい」回答者のみ回答】撰南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験したいと思いますか。（択一）	受験したい	29	11.2%
		受験しない	17	6.6%
		合計	46	17.8%
問6	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】撰南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。（択一）	入学したい	4	1.5%
		併願校の結果等の状況により入学したい	25	9.7%
		合計	29	11.2%
問7	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】あなたが撰南大学大学院農学研究科（仮称）で専攻したい領域をお答えください。（択一）	農業生産科学領域	5	1.9%
		応用生物科学領域	7	2.7%
		食品栄養科学領域	4	1.5%
		食農ビジネス学領域	3	1.2%
		検討中のため未定	10	3.9%

		合計	29	11.2%
問8	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】 博士前期課程（修士課程）の修了後、摂南 大学大学院農学研究科博士後期課程（仮称） への進学を希望しますか。（択一）	博士前期課程の修了後すぐに進学したい	1	0.4%
		可能であれば進学したい	5	1.9%
		進学は考えていない	7	2.7%
		わからない	16	6.2%
		合計	29	11.2%

※「構成比」（％）はいずれも小数点第二位を四捨五入。

③1年生（4学科）

回答者		1年生 4学科		
問	設問	選択肢	回答数	割合／全体
問1	あなたの所属学部（学科）をお答えください。（択一）	農学部 農業生産学科	63	18.8%
		農学部 応用生物科学科	77	23.0%
		農学部 食品栄養学科	86	25.7%
		農学部 食農ビジネス学科	109	32.5%
		理工学部 生命科学科	0	0.0%
		経済学部 経済学科	0	0.0%
		経営学部 経営学科	0	0.0%
		経営学部 経営情報学科	0	0.0%
		合計	335	100.0%
問2	あなたの学年をお答えください。（択一）	3年生	0	0.0%
		2年生	0	0.0%
		1年生	335	100.0%
		合計	335	100.0%
問3	あなたの性別をお答えください。（択一）	男性	194	57.9%
		女性	141	42.1%
		合計	335	100.0%
問4	あなたは大学院への進学を検討していますか。（択一）	進学したい	14	4.2%
		可能であれば進学したい	40	11.9%
		進学は考えていない	281	83.9%
		合計	335	100.0%
問5	【問4の「進学したい」「可能であれば進学したい」回答者のみ回答】摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験したいと思いますか。（択一）	受験したい	27	8.1%
		受験しない	27	8.1%
		合計	54	16.1%
問6	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。（択一）	入学したい	11	3.3%
		併願校の結果等の状況により入学したい	16	4.8%
		合計	27	8.1%
問7	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】あなたが摂南大学大学院農学研究科（仮称）で専攻したい領域をお答えください。（択一）	農業生産科学領域	3	0.9%
		応用生物科学領域	9	2.7%
		食品栄養科学領域	4	1.2%
		食農ビジネス学領域	7	2.1%
		検討中のため未定	4	1.2%

		合計	27	8.1%
問8	【問5の「受験したい」回答者のみ回答】 博士前期課程（修士課程）の修了後、摂南 大学大学院農学研究科博士後期課程（仮 称）への進学を希望しますか。（択一）	博士前期課程の修了後すぐに進学したい	2	0.6%
		可能であれば進学したい	10	3.0%
		進学は考えていない	3	0.9%
		わからない	12	3.6%
		合計	27	8.1%

※「構成比」(%)はいずれも小数点第二位を四捨五入。

3. 結果の要点

要点1) 大学院への進学意向

大学院への進学意向（問4）について、3年生では49人（17.9%）、2年生では46人（17.7%）、1年生では54人（16.1%）が「進学したい」または「可能であれば進学したい」との回答であった。

農学部_の入学定員は340人であるが、入学定員に対して、15%以上の割合で大学院への進学を希望、検討していることが示された。

大学院への進学意向（問4）	3年生		2年生		1年生	
	進学したい	15人	5.5%	4人	1.5%	14人
可能であれば進学したい	34人	12.4%	42人	16.2%	40人	11.9%

※割合は当該学年の全回答者数に対する比率

要点2) 摂南大学大学院農学研究科博士前期課程（仮称）への受験・入学意志

摂南大学大学院農学研究科博士前期課程（仮称）への受験・入学意志については、以下のような結果となった。本大学農学部在籍学生から受験意志を示した者だけで、博士前期課程の入学定員（入学定員20人）を越えることとなった。

本研究科への 受験意志（問5）	本研究科への 入学意志（問6）	3年生		2年生		1年生	
		入学したい	16人	5.8%	4人	1.5%	11人
受験したい	併願校の結果等の状況により入学したい	16人	5.8%	25人	9.7%	16人	4.8%
	「受験したい」合計	32人	11.6%	29人	11.2%	27人	8.1%

※割合は当該学年の全回答者数に対する比率

要点3) 摂南大学大学院農学研究科博士前期課程（仮称）への受験・入学意志（3年生・学科別）

3年生の各学科別の本研究科博士前期課程への受験・入学意志については、以下のような結果となった。応用生物科学科、農業生産学科からの受験・入学希望者が多く、本研究科の主たる入学者になると考えている。食農ビジネス学科からも、少ないながらも複数名の受験・入学希望者が存在している。管理栄養士養成課程である食品栄養学科については、3年生においては国家試験の受験と就職への準備が本格化する点から、受験・入学希望者が少なくなっていると考えられる。

本研究科への 受験意志 (問5)	本研究科への 入学意志(問6)	農業生産学科 n=72		応用生物科学科 n=63		食品栄養学科 n=67		食農ビジネス学科 n=73	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
受験したい	入学したい	6人	8.3%	8人	12.7%	0人	0.0%	2人	2.7%
	併願校の結果等 の状況により入 学したい	6人	8.3%	6人	9.5%	1人	1.5%	3人	4.1%
	「受験したい」合 計	12人	16.7%	14人	22.2%	1人	1.5%	5人	6.8%

※割合は当該学科の全回答者数に対する比率

要点4) 希望する領域

問5で本研究科への受験意志を示した者に対し、本研究科で希望する領域を質問（問7）したところ、以下の結果となった。3年生は農業生産科学領域、応用生物科学領域への進学希望者が多いが、2年生、1年生では4領域に満遍なく進学希望者が存在している。

希望する領域(問7)	3年生		2年生		1年生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
農業生産科学領域	12人	4.4%	5人	1.9%	3人	0.9%
応用生物科学領域	14人	5.1%	7人	2.7%	9人	2.7%
食品栄養科学領域	1人	0.4%	4人	1.5%	4人	1.2%
食農ビジネス学領域	4人	1.5%	3人	1.2%	7人	2.1%
検討中のため未定	1人	0.4%	10人	3.9%	4人	1.2%

※割合は当該学年の全回答者数に対する比率

4. クロス集計

本アンケートでは、大学院（全般）への進学意志（問4）、本研究科への受験意志（問5）、本研究科への入学意志（問6）が、それぞれ「進学、受験したい」の回答でないと以降の質問に答えられない設計になっているため、アンケートの初期設定がクロス集計になっていると言えるが、さらに厳しくクロス集計を行った。

その結果、「大学院に進学したい」＋「本研究科を受験したい」＋「本研究科に入学したい」の回答者は、3年生で5人（1.8%）、2年生で0人（0.0%）、1年生で2人（0.6%）という結果となった。本結果自体はやや厳しい結果となっているが、大学院進学には経済的負担など様々な問題、条件をクリアする必要があるため、大学院進学を積極的に検討している学生の多くが「可能であれば進学したい」（3年生では34件、12.4%）の回答選択肢を選んだと考えている。「可能であれば進学したい」回答者とのクロス集計では、3年生は11人（4.0%）が「入学したい」を選んでいることから、クロス集計の結果については問題がないと考えている。

大学院への 進学意志 (問4)	本研究科へ の受験意志 (問5)	本研究科への 入学意志(問6)	3年生 n=275		2年生 n=259		1年生 n=335	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合
進学したい	受験したい	入学したい	5人	1.8%	0人	0.0%	2人	0.6%
		併願校の結果等の状況により入学したい	7人	2.5%	4人	1.5%	3人	0.9%
		「進学したい」＋ 「受験したい」合計	12人	4.4%	4人	1.5%	5人	1.5%
可能であれば進学したい	受験したい	入学したい	11人	4.0%	4人	1.5%	9人	2.7%
		併願校の結果等の状況により入学したい	9人	3.3%	21人	8.1%	13人	3.9%
		「可能であれば進学したい」＋「受験したい」合計	20人	7.3%	25人	9.7%	22人	6.6%

※割合は当該学年の全回答者数に対する比率

以上



摂南大学大学院農学研究科農学専攻（仮称） [博士前期課程] 入学意向アンケート調査（学部在学生向け）

アンケート対象：摂南大学在学生（農学部等）

摂南大学では、2024（令和6）年4月に大学院農学研究科（仮称）の設置を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、在学生の皆さまからご意見をお聞きし、大学院の構想内容に反映したいと考えています。

本アンケートは無記名の意識調査であり、回答により進学可否や有利不利が決まることはありません。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※別紙の摂南大学大学院農学研究科（仮称）の概要をご覧の上で、本アンケートにお答えください。

問1 あなたの所属学部（学科）をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 農学部 農業生産学科 | <input type="radio"/> 農学部 応用生物科学科 | <input type="radio"/> 農学部 食品栄養学科 |
| <input type="radio"/> 農学部 食農ビジネス学科 | <input type="radio"/> 理工学部 生命科学科 | <input type="radio"/> 経済学部 経済学科 |
| <input type="radio"/> 経営学部 経営学科 | <input type="radio"/> 経営学部 経営情報学科 | |

問2 あなたの学年をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 3年生 2年生 1年生

問3 あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 男性 女性

問4 あなたは大学院への進学を検討していますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 進学したい → 問5にお進みください。
 可能であれば進学したい → 問5にお進みください。
 進学は考えていない → アンケートは終了です。ありがとうございました。

※別紙の摂南大学大学院農学研究科（仮称）の概要を読んだ上で、以下の質問にお答えください。

問5 摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 受験したい → 問6にお進みください。
 受験しない → アンケートは終了です。ありがとうございました。





問6 摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 入学したい 併願校の結果等の状況により入学したい

問7 あなたが摂南大学大学院農学研究科（仮称）で専攻したい領域をお答えください。（もっともよくあてはまるもの1つにマーク）

- 農業生産科学領域 応用生物科学領域 食品栄養科学領域 食農ビジネス学領域
 検討中のため未定

問8 博士前期課程（修士課程）の修了後、摂南大学大学院農学研究科博士後期課程（仮称）への進学を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 博士前期課程の修了後すぐに進学したい 可能であれば進学したい
 進学は考えていない わからない

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



摂南大学大学院 農学研究科 農学専攻

博士前期課程・博士後期課程（仮称）

新研究科の概要

研究科の概要

研究科名称 : 農学研究科農学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称）
 入学定員 : 博士前期課程（2年） 20人
 博士後期課程（3年） 3人
 学位名称 : 博士前期課程 修士（農学）
 博士後期課程 博士（農学）
 設置位置 : 摂南大学枚方キャンパス 大阪府枚方市長尾峠町45-1
 取得可能資格（予定） : 中学校教諭専修免許状（理科）
 高等学校教諭専修免許状（理科）

農学研究科の目的

農学研究科農学専攻は、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や地域社会および国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とします。

博士前期課程

【養成人材像】
 博士前期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人を養成します。

【カリキュラム】
 共通科目を設定し、現在および将来の食と農の諸問題について幅広い知識を身につけるとともに、英語コミュニケーション、サイエンスプレゼンテーション、データ解析などの高度な能力を修得する科目を設置します。また各領域において専門的な特論科目を体系的に開講します。

【社会人の受け入れ】

摂南大学農学研究科では、博士前期課程、博士後期課程ともに社会人を積極的に受け入れます。働きながら就学する学生のために長期履修制度を設けます。また各種奨学金（給付・貸与）も整備しています。

【先端アグリ研究所】

農学部を設置された先端アグリ研究所では、大学・研究機関および産業界と連携した独創的なプロジェクト研究を実施するとともに、摂大農学セミナーを通じて研究情報を広く社会発信しています。

研究科の特色

博士後期課程

【養成人材像】
 博士後期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を深く修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や学問の深化と発展に貢献するための自立した研究遂行力を備えた高度な専門技術者および研究者を養成します。

【カリキュラム】
 共通科目である「食農科学特別講義」で博士後期課程における研究の基盤となる農学の専門知識を身につけ、専攻する領域の特別演習、特別研究において研究活動を推進し、博士論文の完成を目指します。

研究科の領域

農学研究科では、以下の4領域においてそれぞれの分野における専門性の高い研究活動、研究指導を行います。

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
植物遺伝育種科学 生産生態基盤学 作物科学 園芸科学 植物病理学 応用昆虫学 等	植物分子生理学 ゲノム生物学 植物環境微生物学 応用微生物学 動物機能科学 海洋生物学 等	食品学・食品衛生学 調理学・給食経営管理 代謝栄養学 臨床栄養学 公衆衛生・公衆栄養学 生化学・運動生理学 等	食料農業政策学 農業経済経営学 食品産業論 農畜水産物・食品マーケティング論 食農共生学 食農教育学 等

修了後の進路

博士前期

- ・研究職、専門職、技術職（食・農・栄養関係企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）
- ・病院、給食施設等（管理栄養士）
- ・教員（中学・高校）
- ・博士後期課程進学

後博士

- ・大学教員、高等専門学校教員
- ・研究職（研究機関、企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）

初年度学納金（予定）（※他大学からの入学者）

摂南大学大学院農学研究科	入学金	授業料等	初年度納入金
博士前期課程	150,000円	950,000円	1,100,000円
博士後期課程	220,000円	900,000円	1,120,000円

※摂南大学大学院では、日本学生支援機構奨学金・高等教育の修学支援制度・摂南大学学内一般奨学金・民間団体や地方自治体等の奨学金により、給付または貸与の奨学金制度を提供しています。

【参考】他の農学系研究科の学納金 [2022年度入学者（他大学出身者）]

研究科名称	入学金	授業料等	初年度納入金
近畿大学大学院農学研究科	200,000円	950,000円	1,150,000円
龍谷大学大学院農学研究科	200,000円	954,600円	1,154,600円

アクセス（摂南大学枚方キャンパス）

- 京阪本線「樟葉」駅（京橋駅から特急で20分）からバスで約10分
- JR学研都市線「松井山手」駅（京橋駅から快速で30分）からバスで約10分





2020年完成の農学部・農学研究科の専用棟で、充実した実験機器や農場施設を整備しており、4領域の幅広く深い研究が可能です。

農学研究科のカリキュラム

博士前期課程

博士後期課程

共通科目	
農業生産科学領域	特論科目
	演習科目
応用生物科学領域	特論科目
	演習科目
食品栄養科学領域	特論科目
	演習科目
食農ビジネス学領域	特論科目
	演習科目
特別研究（研究指導）	

講義科目	
演習科目・特別研究科目	農業生産科学特別演習
	応用生物科学特別演習
	食品栄養科学特別演習
	食農ビジネス学特別演習
	特別研究（研究指導）

農学研究科の具体的な研究内容（一部抜粋・予定）

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
<ul style="list-style-type: none"> イモ類・マメ類・穀類における形態とその機能、外環境に対する応答、成長などについての研究 養液栽培の生産効率の向上と養液栽培技術の新展開 ヒトと異なる体の構造を持つムシたちの内分泌機構、特に解毒や脂質代謝のメカニズムの探索 有用微生物の隠された能力の解明による、植物の病気を防ぐ新たな微生物農業の提案 環境刺激に応答した転写開始点の変化によって生じる未知のタンパク質アイソフォームの機能を利用した新規育種技術の開発 土壌の生産力や環境の評価法をより洗練して、土壌が持つ能力を最大限に引き出す研究 交雑育種の遺伝的変異拡大、イネ減数分裂期の乗換頻度の遺伝的改変、塩基レベルでの解像度を達成したマップ構築、新規育種素材の探索 農作物の収量を著しく減損させることがある「害虫」について深く知り、新しい害虫管理技術への応用を考える研究 	<ul style="list-style-type: none"> ゲノム進化の原理の探求、ゲノム育種・ゲノム視点からの環境アセスメント 光合成生物における光合成制御メカニズムの解明を介した有用遺伝子の提示と作物への応用 プログラム可能なスプライシング制御RNAの開発 ヒトや動物の腸の機能・役割の多角的・多面的な研究 生態学、生化学、遺伝学の手法を用いて、水圏に生きる生物を理解し、適切な利用と保全を目指す 植物の生理生長を促す共生・寄生性糸状菌を持つ、植物生長制御メカニズムの解明と応用研究 糸状菌の生産する生物活性物質の生合成機構解析と新規機能分子の探索 RNAゲノムをもつ植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と、植物ウイルスに対する新しい防除技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の介護および介護予防における食品および調理の提案、さらに介護食への転換 新しい健康調理方法の開発、調理条件により変化する食材の栄養素・嗜好性・生体調整機能の解明 あまり知られていない食材や、廃棄されていた食品成分を有効活用することによる健康で環境に優しい食生活の提案 栄養介入による疾患改善、フレイル予防など高齢者の健康寿命延伸のための研究 食品の安全を守る分析手法の開発、食品衛生管理システム構築、未承認医薬品・健康食品の該当性判断、食品の安全教育手法の開発 アスリートのパフォーマンス向上を目指した脂質の機能探求、栄養×スポーツが睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響の解明 給食現場からの新しい調理技術・配膳方法の提案、さらに在宅へ拡大 行政計画策定時の健康課題や解決に向けた提案、特産品を使った商品開発による地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 植物工場の生産性向上・全国展開と消費者の購買行動の変化によって生じる需給ギャップの解消 withコロナ時代における食料流通システムのあり方に関する実証研究 アジアやアフリカの小規模農民（社会的弱者層）の支援および日本国内の地域活性化に向けた実践技術や開発アプローチの提案と案件形成 生鮮農水産物流通において欠かすことができない卸売市場の活性化の方策の探究 食・農・環境に関する知識習得や体験、それを活かしたまちづくりへの参画等を通して、地球環境と調和のとれた社会システムの構築の研究 食の生産と消費を通じた社会的課題の解決を目指すオーガニック等のサステナブルな食の取り組みに関する流通・消費・政策の研究 食料自給率が低い日本における、安全で安心な食料を安定的に確保するため、農業のリスクを適切に管理できる効果的なセーフティネット政策の研究

摂南大学大学院
農学研究科（仮称）
入学意向アンケート調査（学外）
[インターネット調査]
報告書

令和5年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 調査概要	P 3
2. 集計表	P 4
3. 結果の要点	P 7
4. クロス集計	P 11
(添付資料)	P 12
摂南大学大学院農学研究科（仮称）	
入学意向アンケート調査（学外向け）（設問画面）	

1. 調査概要

調査目的	<p>「摂南大学大学院農学研究科(仮称)」(令和6年度に設置予定)に対する以下の志願者・入学者の見込みを測定することを目的とする。</p> <p>(1) 学外からの本研究科博士前期課程への入学ニーズ (2) 学外からの本研究科博士後期課程への入学ニーズ</p>
調査対象	<p>インターネット調査会社の登録モニターのうち、以下の属性の集団を対象とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿地区在住者 (1) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業生 (2) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学院修士課程修了者または在学者
調査内容	<p>(1) 対象：農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院修士課程への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科博士前期課程(仮称)への受験・入学意向 <p>(2) 対象：農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学院修士課程修了者または在学者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院博士後期課程への進学意向 ・摂南大学大学院農学研究科博士後期課程(仮称)への受験・入学意向
調査時期	令和4年10月
調査方法	インターネット調査会社が調査を実施した。調査会社の登録モニターに対し、メールで依頼をし、パソコンまたはスマートフォンで回答を行った。
回収件数	<p>(1) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業生：1,004人</p> <p>(2) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学院修士課程修了者または在学者：97人</p> <p>合計：1,101人</p>
調査結果	<p>(1) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業生 n=1,004</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学大学院農学研究科博士前期課程(仮称)への受験意志：72人(7.2%) ・摂南大学大学院農学研究科博士前期課程(仮称)への入学意志：40人(4.0%) <p>(2) 農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学院修士課程修了者または在学者 n=97</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学大学院農学研究科博士後期課程(仮称)への受験意志：15人(15.5%) ・摂南大学大学院農学研究科博士後期課程(仮称)への入学意志：10人(10.3%)
調査実施	株式会社クロス・マーケティング 株式会社高等教育総合研究所

2. 集計表

GROU P	グループ（本インターネットアンケートの回答者集団）		
		回答数	%
	全体	1,101	100.0
1	農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系の大学学部卒業者または大学院修士課程修了者	1,101	100.0

SC1	あなたの性別をお知らせください。		
		回答数	%
	全体	1,101	100.0
1	男性	808	73.4
2	女性	293	26.6

SC2	あなたの年齢をお知らせください。（歳）		
		回答数	%
	全体	1,101	100.0
	平均値		47.47
	最小値		22
	最大値		60

SC3	あなたのお住まい（都道府県）をお知らせください。		
		回答数	%
	全体	1,101	100.0
1	滋賀県	63	5.7
2	京都府	148	13.4
3	大阪府	493	44.8
4	兵庫県	277	25.2
5	奈良県	80	7.3
6	和歌山県	40	3.6

SC4	あなたの最終学歴をお知らせください。（※スクリーニングの確認の設問）		
		回答数	%
	全体	1,101	100.0
1	高校・専門学校・短大卒	0	0.0
2	大学卒（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部）	1,004	91.2
3	大学卒（その他の学部）	0	0.0
4	大学院（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系）修士課程在学中又は修了（修士）	97	8.8
5	大学院（上記分野以外）修士課程在学中または修了（修士）	0	0.0

6	大学院博士課程（博士後期課程）在学中または修了（博士）	0	0.0
7	その他	0	0.0

SC5	あなたの職業をお知らせください。			
			回答数	%
	全体		1,101	100.0
1	企業等事業所（農林水産業）		3	0.3
2	企業等事業所（バイオ・化学系）		59	5.4
3	企業等事業所（食品・給食・医療系）		63	5.7
4	企業等事業所（食農ビジネス・農業団体・流通系）		23	2.1
5	企業等事業所（その他の業種）		476	43.2
6	自営業		77	7.0
7	公務員		42	3.8
8	管理栄養士・栄養士		9	0.8
9	教員		10	0.9
10	パート・アルバイト		92	8.4
11	専業主婦・主夫		62	5.6
12	学生・研究生		3	0.3
13	無職		64	5.8
14	その他の職業		118	10.7

Q1	【SC4の「大学卒（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部）」回答者のみ】 あなたは大学院修士課程（博士前期課程）への進学を検討していますか。			
			回答数	%
	全体		1,004	100.0
1	すぐに進学したい		17	1.7
2	将来的には進学したい		82	8.2
3	進学は考えていない		905	90.1

Q2	【Q1の（修士課程に）「すぐに進学したい」「将来的には進学したい」回答者のみ】 あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験したいと思いますか。			
			回答数	%
	全体		99	100.0
1	受験したい		72	72.7
2	受験しない		27	27.3

Q3	【Q2の「受験したい」回答者のみ】 あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。			
			回答数	%

全体		72	100.0
1	入学したい	40	55.6
2	併願校の結果等の状況により入学したい	32	44.4

Q4	【SC4の「大学院（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系）修士課程在学中又は修了（修士）」回答者のみ】 あなたは大学院博士課程（博士後期課程）への進学を検討していますか。
----	---

		回答数	%
全体		97	100.0
1	すぐに進学したい	5	5.2
2	将来的には進学したい	14	14.4
3	進学は考えていない	78	80.4

Q5	【Q4の（博士後期課程に）「すぐに進学したい」「将来的には進学したい」回答者のみ】 あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程（仮称）を受験したいと思いますか。
----	--

		回答数	%
全体		19	100.0
1	受験したい	15	78.9
2	受験しない	4	21.1

Q6	【Q5の「受験したい」回答者のみ】 あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。
----	--

		回答数	%
全体		15	100.0
1	入学したい	10	66.7
2	併願校の結果等の状況により入学したい	5	33.3

Q7	【Q2の（摂南大学大学院農学研究科博士前期課程を）「受験したい」およびQ5の（摂南大学大学院農学研究科博士後期課程を）「受験したい」回答者のみ】 あなたが摂南大学大学院農学研究科（仮称）で専攻したい領域をお答えください。
----	---

		回答数	%
全体		87	100.0
1	農業生産科学領域	20	23.0
2	応用生物科学領域	25	28.7
3	食品栄養科学領域	16	18.4
4	食農ビジネス学領域	11	12.6
5	検討中のため未定	15	17.2

※「構成比」(%)はいずれも小数点第二位を四捨五入。

3. 結果の要点

要点1) 一般的な大学院 (M・D) への進学意向

(1) 一般的な大学院 (M) への進学意向 (Q1)

「近畿地区の大学卒者（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部）」（本研究科の入学対象者）のうち17人（1.7%）が「すぐに進学したい」、82人（8.2%）が「将来的には進学したい」の回答であった。合わせて9.9%、約1割の者が大学院（M）への進学意向を持っていることが示された。

大学院 (M) への進学意向 (Q1)	大学卒者（農学・生物・化学・食品・ 栄養・経済・経営系学部）n=1004	
すぐに進学したい	17人	1.7%
将来的には進学したい	82人	8.2%
合計	99人	9.9%

(2) 一般的な大学院 (D) への進学意向 (Q4)

「近畿地区の修士課程修了者または在学者（農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部）」（本研究科の入学対象者）のうち5人（5.2%）が「すぐに進学したい」、14人（14.4%）が「将来的には進学したい」の回答であった。合わせて19.6%、約2割の者が大学院（D）への進学意向を持っていることが示された。

大学院 (D) への進学意向 (Q4)	大学院（農学・生物・化学・食品・ 栄養・経済・経営系）修士課程在学中又 は修了者（修士）n=97	
すぐに進学したい	5人	5.2%
将来的には進学したい	14人	14.4%
合計	19人	19.6%

本調査は、居住地と学歴の属性のみを抽出条件としたアンケートモニターへの意識調査であることから、修士課程、博士後期課程ともに、学外の社会人等には一定割合の低くない大学院への進学ニーズがあることが示された。

要点2) 摂南大学大学院農学研究科(仮称)(M・D)への受験・入学意志

(1) 摂南大学大学院農学研究科博士前期課程(仮称)への受験・入学意志(Q2)(Q3)

本研究科(M)(入学定員20人)の入学対象者である「近畿地区在住者の大学卒業者(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部)」(1,004人)の中での大学院(M)進学希望者(99人)のうち、72人(7.2%)が本研究科(M)への受験意志を示し、そのうち40人(4.0%)が入学意志を示した。

本研究科(M)への受験・入学意志

本研究科(M)への受験意志(Q2)	本研究科(M)への入学意志(Q3)	大学卒者(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部) n=1004	
受験したい (72人)	入学したい	40人	4.0%
	併願校の結果等の状況により入学したい	32人	3.2%
	合計	72人	7.2%

(2) 摂南大学大学院農学研究科博士後期課程(仮称)への受験・入学意志(Q5)(Q6)

本研究科(D)(入学定員3人)の入学対象者である「近畿地区在住者の大学院(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系)修士課程在学中又は修了者(修士)」(97人)の中での大学院(D)進学希望者(19人)のうち、15人(15.5%)が本研究科(D)への受験意志を示し、そのうち10人(10.3%)が入学意志を示した。

本研究科(D)への受験・入学意志

本研究科(D)への受験意志(Q5)	本研究科(D)への入学意志(Q6)	大学院(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系)修士課程在学中又は修了者(修士) n=97	
受験したい (15人)	入学したい	10人	10.3%
	併願校の結果等の状況により入学したい	5人	5.2%
	合計	15人	15.5%

以上の(1)および(2)により、本研究科の博士前期課程(入学定員20人)、博士後期課程(入学定員3人)ともに、入学定員を越える受験・入学意志が示された。

要点3) 本研究科において希望する領域

(Q2) および (Q5) で本研究科への受験意志を示した者に対し、本研究科で希望する領域を質問 (Q7) したところ、以下の結果となった。博士前期課程については4領域ともにバランスよく受験・入学希望者が存在することが示されている。博士後期課程については、農業生産科学領域、応用生物科学領域を希望するもので過半数が占められている。

本研究科の受験希望者の希望する領域

希望する領域 (Q7)	受験意志を示した者 (M) n=72		受験意志を示した者 (D) n=15		受験意志を示した 者 (M) (D) 合計 n=87	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
農業生産科学領域	16人	22.2%	4人	26.7%	20人	23.0%
応用生物科学領域	17人	23.6%	8人	53.3%	25人	28.7%
食品栄養科学領域	15人	20.8%	1人	6.7%	16人	18.4%
食農ビジネス学領域	11人	15.3%	0人	0.0%	11人	12.6%
検討中のため未定	13人	18.1%	2人	13.3%	15人	17.2%
合計	72人	100.0%	15人	100.0%	87人	100.0%

要点4) 職業別の本研究科への受験意志

回答者の職業（SC5）ごとの、本研究科への受験意志は以下の通りである。博士前期課程については企業等事業所（その他の業種）が最も多いが、バイオ・化学系事業所、食品・給食・医療系事業所、自営業、管理栄養士・栄養士など、幅広い職種から受験意向を集めている。博士後期課程については、バイオ・化学系事業所が40%と最も多く、(Q7)の専攻領域への希望と整合していると言える。

職業別の本研究科への受験意志

回答者の職業	受験意志を示した者（M）		受験意志を示した者（D）	
	人数	割合	人数	割合
01 企業等事業所（農林水産業）	1人	1.4%	0人	0.0%
02 企業等事業所（バイオ・化学系）	5人	6.9%	6人	40.0%
03 企業等事業所（食品・給食・医療系）	8人	11.1%	4人	26.7%
04 企業等事業所（食農ビジネス・農業団体・流通系）	4人	5.6%	1人	6.7%
05 企業等事業所（その他の業種）	31人	43.1%	2人	13.3%
06 自営業	7人	9.7%	1人	6.7%
07 公務員	3人	4.2%	0人	0.0%
08 管理栄養士・栄養士	2人	2.8%	0人	0.0%
09 教員	1人	1.4%	0人	0.0%
10 パート・アルバイト	4人	5.6%	1人	6.7%
11 専業主婦・主夫	1人	1.4%	0人	0.0%
12 学生・研究生	0人	0.0%	0人	0.0%
13 無職	2人	2.8%	0人	0.0%
14 その他の職業	3人	4.2%	0人	0.0%
総計	72人	100.0%	15人	100.0%

4. クロス集計

本アンケートでは、大学院（全般）への進学意志（Q1）（Q4）、本研究科への受験意志（Q2）（Q5）、本研究科への入学意志（Q3）（Q6）が、それぞれ「進学、受験したい」の回答でないと以降の質問に答えられない設計になっているため、アンケートの初期設定がクロス集計になっていると言えるが、さらに厳しくクロス集計を行った。

（1）博士前期課程

「大学院（M）にすぐに進学したい」＋「本研究科（M）を受験したい」＋「本研究科（M）に入学したい」の回答者は、15人（1.5%）という結果となった。

大学院（M）進学意志と摂南大学大学院農学研究科（M）への受験・入学意志のクロス集計

大学院（M）への 進学意志（Q1）	本研究科（M）への 受験意志（Q2）	本研究科（M）への 入学意志（Q3）	大学卒者（農学・生物・化学・ 食品・栄養・経済・経営系学 部）n=1004	
すぐに進学したい （17人）	受験したい （17人）	入学したい	15人	1.5%
		併願校の結果等の状況により入学したい	2人	0.2%
		合計	17人	1.7%

（2）博士後期課程

「大学院（D）にすぐに進学したい」＋「本研究科（D）を受験したい」＋「本研究科（D）に入学したい」の回答者は、4人（4.1%）という結果となった。

大学院（D）進学意志と摂南大学大学院農学研究科（D）への受験・入学意志のクロス集計

大学院（D）への 進学意志（Q4）	本研究科（D）への 受験意志（Q5）	本研究科（D）への 入学意志（Q6）	大学院（農学・生物・化学・ 食品・栄養・経済・経営系） 修士課程在学中又は修了者 （修士）n=97	
すぐに進学したい （5人）	受験したい （5人）	入学したい	4人	4.1%
		併願校の結果等の状況により入学したい	1人	1.0%
		合計	5人	5.1%

以上の（1）および（2）のクロス集計により、博士前期課程、博士後期課程とも、学外の学部卒業業者または大学院修士課程修了者・在学中の社会人等への調査として、一定の確実な入学ニーズがあることが示された。

インターネット調査 設問画面

対象外条件 **SC2_1** < 22 または **SC2_1** > 60 (即時回答終了)

対象外条件 **SC3** ≠ 「25. 滋賀県」 ~ 「30. 和歌山県」 (即時回答終了)

対象外条件 **SC4** = 「1. 高校・専門学校・短大卒」, 「3. 大学卒(その他の学部)」 または (**SC4** = 「5. 大学院(上記分野以外)修士課程在学中または修了(修士)」 ~ 「7. その他」) (即時回答終了)

アンケート画面開始

Page 1

SC1

必須設定

回答必須

SC1

あなたの性別をお知らせください。

1 男性2 女性

SC2

対象外条件 **SC2_1** < 22 または **SC2_1** > 60 (即時回答終了)

- カテゴリ 1. 歳

必須設定

回答必須

回答制御

回答範囲「0~99」に該当しない場合はアラートを表示

SC2

あなたの年齢をお知らせください。

 歳

SC3

必須設定

回答必須

対象外条件 **SC3** ≠ 「25. 滋賀県」 ~ 「30. 和歌山県」 (即時回答終了)

SC3

あなたのお住まい(都道府県)をお知らせください。

 --- ▼

次へ

0 50 100(%)

SC4

必須設定

回答必須

対象外条件

SC4 = 「1. 高校・専門学校・短大卒」, 「3. 大学卒(その他の学部)」または (SC4 = 「5. 大学院(上記分野以外)修士課程在学中または修了(修士)」 ~ 「7. その他」) (即時回答終了)

SC4

あなたの最終学歴をお知らせください。

- 1 高校・専門学校・短大卒
- 2 大学卒(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部)
- 3 大学卒(その他の学部)
- 4 大学院(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系)修士課程在学中又は修了(修士)
- 5 大学院(上記分野以外)修士課程在学中または修了(修士)
- 6 大学院博士課程(博士後期課程)在学中または修了(博士)
- 7 その他

次へ



0 50 100(%)

SC5

必須設定

回答必須

SC5

あなたの職業をお知らせください。

- 1 企業等事業所(農林水産業)
- 2 企業等事業所(バイオ・化学系)
- 3 企業等事業所(食品・給食・医療系)
- 4 企業等事業所(食農ビジネス・農業団体・流通系)
- 5 企業等事業所(その他の業種)
- 6 自営業
- 7 公務員
- 8 管理栄養士・栄養士
- 9 教員
- 10 パート・アルバイト
- 11 専業主婦・主夫
- 12 学生・研究生
- 13 無職
- 14 その他の職業

次へ



0 50 100(%)

アンケート画面開始

Page 1

摂南大学では2024(令和6)年4月に大学院農学研究科(仮称)の設置を構想しています。下記の摂南大学農学研究科(仮称)の概要をご覧の上で、以下の設問にお答えください。

◇研究科名称 : 農学研究科農学専攻 博士前期課程・博士後期課程(仮称)

◇入学定員 : 博士前期課程(2年) 20人

博士後期課程(3年) 3人

◇住所 : 摂南大学枚方キャンパス 大阪府枚方市長尾峠町45-1

(京阪本線 樟葉駅 下車 バスで10分)

◇専門領域: 農業生産科学領域、応用生物科学領域、食品栄養科学領域、食農ビジネス学領域

◇養成人材像: 農学研究科農学専攻は、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や地域社会および国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とします。

[次へ](#)

0 50 100(%)

2024年4月 開設予定〔設置構想中〕

摂南大学大学院 農学研究科 農学専攻

博士前期課程・博士後期課程（仮称）

Smart and Human
摂南大学

新研究科の概要

研究科の概要

研究科名称 : 農学研究科農学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称）

入学定員 : 博士前期課程（2年） 20人
博士後期課程（3年） 3人

学位名称 : 博士前期課程 修士（農学）
博士後期課程 博士（農学）

設置位置 : 摂南大学枚方キャンパス 大阪府枚方市長尾崎町4-5-1

取得可能資格（予定） : 中学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭専修免許状（理科）

研究科の特色

博士前期課程

【養成人材像】
博士前期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人を養成します。

【カリキュラム】
共通科目を設定し、現在および将来の食と農の諸問題について幅広い知識を身につけるとともに、英語コミュニケーション、サイエンスプレゼンテーション、データ解析などの高度な能力を修得する科目を設置します。また各領域において専門的な特論科目を体系的に開講します。

博士後期課程

【養成人材像】
博士後期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を深く修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や学問の深化と発展に貢献するための自立した研究遂行力を備えた高度な専門技術者および研究者を養成します。

【カリキュラム】
共通科目である「食農科学特別講義」で博士後期課程における研究の基盤となる農学の専門知識を身につけ、専攻する領域の特別演習、特別研究において研究活動を推進し、博士論文の完成を目指します。

研究科の領域

農学研究科では、以下の4領域においてそれぞれの分野における専門性の高い研究活動、研究指導を行います。

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
植物遺伝育種科学 生産生態学 作物科学 園芸科学 植物病理学 応用昆虫学 等	植物分子生理学 ゲノム生物学 植物環境微生物学 応用微生物学 動物機能科学 海洋生物学 等	食品学・食品衛生学 調理学・給食経営管理 代謝栄養学 臨床栄養学 公衆衛生・公衆栄養学 生化学・運動生理学 等	食料農業政策学 農業経済経営学 食品産業論 農畜水産物・食品マーケティング論 食農共生学 等

修士後の進路

博士前期

- ・研究職、専門職、技術職（食・農・栄養関係企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）
- ・病院、給食施設等（管理栄養士）
- ・教員（中学・高校）
- ・博士後期課程進学

博士後期

- ・大学教員、高等専門学校教員
- ・研究職（研究機関、企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）

初年度学納金（予定）（※他大学からの入学者）

摂南大学大学院農学研究科	入学金	授業料等	初年度納入金
博士前期課程	150,000円	950,000円	1,100,000円
博士後期課程	220,000円	900,000円	1,120,000円

※摂南大学大学院では、日本学生支援機構奨学金・高等教育の修学支援制度・摂南大学学内一般奨学金・民間団体や地方自治体等の奨学金により、給付または貸与の奨学金制度を提供しています。

【参考】他の農学系研究科の学納金【2022年度入学者（他大学出身者）】

研究科名称	入学金	授業料等	初年度納入金
近畿大学大学院農学研究科	200,000円	950,000円	1,150,000円
龍谷大学大学院農学研究科	200,000円	954,600円	1,154,600円

アクセス（摂南大学枚方キャンパス）

- 京阪本線「樟葉」駅（京橋駅から特急で20分）からバスで約10分
- JR学研都市線「松井山手」駅（京橋駅から快速で30分）からバスで約10分

※上記に記載した内容は全て設置構想中の予定であり、変更の可能性があります。

農学研究科の校舎（摂南大学枚方キャンパス）




2020年完成の農学部・農学研究科の専用棟で、充実した実験機器や農場施設を整備しており、4領域の幅広く深い研究が可能です。

農学研究科のカリキュラム

博士前期課程		博士後期課程		
共通科目		講義科目		
農業生産科学領域	特論科目	演習科目・特別研究科目	農業生産科学特別演習	
	演習科目		応用生物科学特別演習	
応用生物科学領域	特論科目		食品栄養科学特別演習	
	演習科目		食農ビジネス学特別演習	
食品栄養科学領域	特論科目		特別研究（研究指導）	
	演習科目			
食農ビジネス学領域	特論科目			
	演習科目			
特別研究（研究指導）				

農学研究科の具体的な研究内容（一部抜粋・予定）

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
<ul style="list-style-type: none"> ・イモ類・マメ類・穀類における形態とその機能、外環境に対する応答、成長などについての研究 ・養液栽培の生産効率の向上と養液栽培技術の新展開 ・ヒトと異なる体の構造を持つムシたちの内分泌機構、特に解毒や脂質代謝のメカニズムの探索 ・有用微生物の隠された防カ能力の解明による、植物の病気を防ぐ新たな微生物農業の提案 ・環境刺激に応答した転写開始点の変化によって生じる未知のタンパク質アイソフォームの機能を利用した新規育種技術の開発 ・土壌の生産力や環境の評価法をより洗練して、土壌が持つ能力を最大限に引き出す研究 ・交雑育種の遺伝的変異拡大、イネ減数分裂期の東換頻度の遺伝的改変、塩基レベルでの解像度を達成したマップ構築、新規育種素材の探索 ・農作物の収量を著しく減損させることがある「害虫」について深く知り、新しい害虫管理技術への応用を考える研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム進化の原理の探求、ゲノム育種・ゲノム視点からの環境アセスメント ・光合成生物における光合成制御メカニズムの解明を介した有用遺伝子の提示と作物への応用 ・プログラム可能なスプライシング制御RNAの開発 ・ヒトや動物の腸の機能・役割の多角的・多面的な研究 ・生態学、生化学、遺伝学の手法を用いて、水圏に生きる生物を理解し、適切な利用と保全を目指す ・植物の生理生長を促す共生・寄生性糸状菌が持つ、植物生長制御メカニズムの解明と応用研究 ・糸状菌の生産する生物活性物質の生成機構解析と新規機能分子の探索 ・RNAゲノムをもつ植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と、植物ウイルスに対する新しい防除技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護および介護予防における食品および調理の提案、さらに介護食への転換 ・新しい健康調理方法の開発、調理条件により変化する食材の栄養素・嗜好性・生体調整機能の解明 ・あまり知られていない食材や、廃棄されていた食品成分を有効活用することによる健康で環境に優しい食生活の提案 ・栄養介入による疾患改善、フレイル予防など高齢者の健康寿命延伸のための研究 ・食品の安全を守る分析手法の開発、食品衛生管理システム構築、未承認医薬品・健康食品の該当性判断、食品の安全教育手法の開発 ・アスリートのパフォーマンス向上を目指した脂質の機能探求、栄養×スポーツが睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響の解明 ・給食現場からの新しい調理技術・配膳方法の提案、さらに在宅へ拡大 ・行政計画策定時の健康課題や解決に向けた提案、特産品を使った商品開発による地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物工場の生産性向上・全国展開と消費者の購買行動の変化によって生じる需給ギャップの解消 ・withコロナ時代における食料流通システムのあり方に関する実証研究 ・アジアやアフリカの小規模農民（社会的弱者層）の支援および日本国内の地域活性化に向けた実践技術や開発アプローチの提案と案件形成 ・生鮮農水産物流通において欠かすことができない卸売市場の活性化の方策の探究 ・食・農・環境に関する知識習得や体験、それを活かしたまちづくりへの参画等を通して、地球環境と調和のとれた社会システムの構築の研究 ・食の生産と消費を通じた社会的課題の解決を目指すオーガニック等のサステナブルな食の取り組みに関する流通・消費・政策の研究 ・食料自給率が低い日本における、安全で安心な食料を安定的に確保するため、農業のリスクを適切に管理できる効果的なセーフティネット政策の研究

※上記に記載した内容は全て設置構想中の予定であり、変更の可能性があります。

※画像をクリックすると拡大画像をご覧いただけます。

次へ



Q1

必須設定

回答必須

回答者条件

SC4 = 「2. 大学卒(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系学部)」

Q1

あなたは大学院修士課程(博士前期課程)への進学を検討していますか。

- 1 すぐに進学したい
- 2 将来的には進学したい
- 3 進学は考えていない

[次へ](#)

Q2

必須設定

回答必須

回答者条件

Q1 = 「1. すぐに進学したい」, 「2. 将来的には進学したい」

Q2

あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程(仮称)を受験したいと思えますか。

- 1 受験したい
- 2 受験しない

次へ

0 50 100(%)



Q3

必須設定

回答必須

回答者条件

Q2 = 「1. 受験したい」

Q3

あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士前期課程(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- 1 入学したい
- 2 併願校の結果等の状況により入学したい

次へ

0 50 100(%)



Q4

必須設定

回答必須

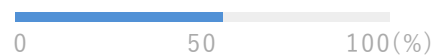
回答者条件

SC4 = 「4. 大学院(農学・生物・化学・食品・栄養・経済・経営系)修士課程在学中又は修了(修士)」

Q4

あなたは大学院博士課程(博士後期課程)への進学を検討していますか。

- 1 すぐに進学したい
- 2 将来的には進学したい
- 3 進学は考えていない

[次へ](#)

Q5

必須設定

回答必須

回答者条件

Q4 = 「1. すぐに進学したい」, 「2. 将来的には進学したい」

Q5

あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程(仮称)を受験したいと思えますか。

- 1 受験したい
- 2 受験しない

[次へ](#)

0 50 100(%)

Q6

必須設定

回答必須

回答者条件

Q5 = 「1. 受験したい」

Q6

あなたは摂南大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程(仮称)を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- 1 入学したい
- 2 併願校の結果等の状況により入学したい

次へ

0 50 100(%)

Q7

必須設定

回答必須

回答者条件

Q2 = 「1. 受験したい」または Q5 = 「1. 受験したい」

Q7

あなたが摂南大学大学院農学研究科(仮称)で専攻したい領域をお答えください。

- 1 農業生産科学領域
- 2 応用生物科学領域
- 3 食品栄養科学領域
- 4 食農ビジネス学領域
- 5 検討中のため未定

送信

0 50 100(%)

近畿地区の農学系研究科の学生納付金

単位：円

大学名	研究科名	立地 ※当該研究科	課程	入学金	1年次	初年度納入金 (令和4年度入学生)
摂南大学大学院	農学研究科	大阪府枚方市	博士前期課程	150,000	950,000	1,100,000
			博士後期課程	220,000	900,000	1,120,000
近畿大学大学院	農学研究科	奈良県奈良市	博士前期課程	200,000	950,000	1,150,000
			博士後期課程	200,000	950,000	1,150,000
龍谷大学大学院	農学研究科	滋賀県大津市	修士課程	200,000	954,600	1,154,600
			博士後期課程	200,000	954,600	1,154,600

出典：各大学ホームページ

近畿地区の農学系研究科の収容定員充足状況

大学名	研究科名	課程	区分	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
近畿大学大学院	農学研究科	博士前期課程	収容定員	112	112	112	112	112
			学生数	137	141	153	176	192
			充足率（倍）	1.22	1.25	1.36	1.57	1.71
		博士後期課程	収容定員	51	51	51	51	51
			学生数	18	14	12	10	10
			充足率（倍）	0.35	0.27	0.23	0.19	0.19
龍谷大学大学院	農学研究科	修士課程	収容定員	30	60	60	60	60
			学生数	6	27	44	42	45
			充足率（倍）	0.20	0.45	0.73	0.70	0.75
		博士後期課程	収容定員	5	10	15	15	15
			学生数	9	14	19	15	15
			充足率（倍）	1.80	1.40	1.26	1.00	1.00

出典：各大学ホームページ

※各年度5月1日現在の数値。充足率は小数点第3位切り捨て

摂南大学大学院 既設研究科の学生募集状況

研究科・専攻名		課程	年度	入学定員	志願者数	入学者数	入学定員 充足率 (倍)	収容定員	学生数	収容定員 充足率 (倍)
薬学 研究科	医療薬学専攻	博士課程	平成30年度	4	3	3	0.75	16	14	0.87
			令和1年度	4	5	4	1.00	16	12	0.75
			令和2年度	4	3	2	0.50	16	11	0.68
			令和3年度	4	3	2	0.50	16	11	0.68
			令和4年度	4	6	3	0.75	16	10	0.62
理工学 研究科	社会開発専攻	博士前期課程	平成30年度	12	12	10	0.83	24	19	0.79
			令和1年度	12	12	12	1.00	24	22	0.91
			令和2年度	12	14	10	0.83	24	24	1.00
			令和3年度	12	24	20	1.66	24	30	1.25
			令和4年度	12	14	12	1.00	24	32	1.33
	生産開発工学専攻	博士前期課程	平成30年度	12	13	11	0.91	24	17	0.70
			令和1年度	12	13	10	0.83	24	21	0.87
			令和2年度	12	8	6	0.50	24	18	0.75
			令和3年度	12	18	16	1.33	24	22	0.91
			令和4年度	12	8	8	0.66	24	24	1.00
	生命科学専攻	博士前期課程	平成30年度	10	13	11	1.10	20	21	1.05
			令和1年度	10	9	7	0.70	20	17	0.85
			令和2年度	10	7	7	0.70	20	14	0.70
			令和3年度	10	20	17	1.70	20	25	1.25
			令和4年度	10	13	13	1.30	20	28	1.40
		博士後期課程	平成30年度	2	0	0	0.00	6	2	0.33
			令和1年度	2	1	1	0.50	6	2	0.33
			令和2年度	2	4	4	2.00	6	5	0.83
			令和3年度	2	2	2	1.00	6	7	1.16
	創生工学専攻	博士後期課程	平成30年度	2	0	0	0.00	6	2	0.33
令和1年度			2	0	0	0.00	6	2	0.33	
令和2年度			2	0	0	0.00	6	1	0.16	
令和3年度			2	1	1	0.50	6	1	0.16	
令和4年度			2	0	0	0.00	6	1	0.16	
経済 経営学 研究科	経済学専攻	修士課程	平成30年度	5	0	0	0.00	10	1	0.10
			令和1年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
			令和2年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
			令和3年度	5	1	1	0.20	10	1	0.10
			令和4年度	5	2	1	0.20	10	2	0.20
	経営学専攻	修士課程	平成30年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
			令和1年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
			令和2年度	5	1	1	0.20	10	1	0.10
			令和3年度	5	1	0	0.00	10	1	0.10
法学 研究科	法律学専攻	修士課程	平成30年度	5	0	0	0.00	10	2	0.20
			令和1年度	5	2	2	0.40	10	2	0.20
			令和2年度	5	3	3	0.60	10	5	0.50
			令和3年度	5	0	0	0.00	10	3	0.30
			令和4年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
国際 言語 文化 研究科	国際言語文化専攻	修士課程	平成30年度	5	1	1	0.20	10	2	0.20
			令和1年度	5	2	1	0.20	10	2	0.20
			令和2年度	5	1	1	0.20	10	2	0.20
			令和3年度	5	0	0	0.00	10	2	0.20
			令和4年度	5	0	0	0.00	10	0	0.00
看護学 研究科	看護学専攻	修士課程	平成30年度	6	3	2	0.33	12	6	0.50
			令和1年度	6	3	3	0.50	12	5	0.41
			令和2年度	6	7	6	1.00	12	10	0.83
			令和3年度	6	4	4	0.66	12	12	1.00
			令和4年度	6	2	2	0.33	12	10	0.83

※各年度5月1日現在の数値。充足率は小数点第3位切り捨て

農学系修士課程修了者の修了後の進路

修了時期	分野	小区分	M修了者 合計①	進学者	自営業主 等 (a)	無期雇用 労働者 (b)	有期雇用 労働者 (雇用契 約期間が 一か月以 上の者)	臨時労働 者	専修学 校・外国 の学校等 入学者	左記以外 の者	不詳・死 亡の者	「進学者」のうち 就職している者 (c)		左記有期 雇用労働 者のうち、 雇用契 約期間が 一年以上、 かつフル タイム勤 務相当の 者 (d)	就職者 (再掲) の合計= (a, b, c, d)	進学者+ 就職者の 合計②	②進学者 +就職者 /①M修 了者の割 合
												自営業主 等、無期 雇用労働 者	雇用契 約期間が 一年以上、 かつフル タイム勤 務相当の 者				
令和4年3月	農学	農学	954	103	3	734	17	2	—	94	1	1	—	14	752	855	89.6%
令和4年3月	農学	農芸化学	122	10	—	95	2	—	—	15	—	—	—	2	97	107	87.7%
令和4年3月	農学	農業工学	116	10	—	83	—	—	—	23	—	—	—	—	83	93	80.2%
令和4年3月	農学	農業経済学	65	13	—	44	1	—	—	7	—	1	—	1	46	59	90.8%
令和4年3月	農学	林学	68	14	—	40	1	—	—	13	—	—	—	1	41	55	80.9%
令和4年3月	農学	獣医学畜産学	119	15	1	86	2	—	—	15	—	—	—	1	88	103	86.6%
令和4年3月	農学	水産学	368	40	2	289	7	1	4	25	—	—	—	7	298	338	91.8%
令和4年3月	農学	その他	1,936	200	8	1,512	29	2	5	180	—	2	1	24	1,547	1,747	90.2%
令和4年3月	農学	計	3,748	405	14	2,883	59	5	9	372	1	4	1	50	2,952	3,357	89.6%

出典：学校基本調査

農学系博士課程修了者の修了後の進路

修了時期	分野	小区分	D修了者 合計①	進学者	自営業 主等 (a)	無期雇 用労働 者 (b)	有期雇 用労働 者 (雇 用契約 期間が 一か月 以上の 者)	臨時労 働者	専修学 校・外 国の学 校等入 学者	左記以 外の者	不詳・ 死亡の 者	自営業 主等, 無期雇 用労働 者		雇用契 約期間 が一年 以上, かつフル タイム 勤務相 当の者	左記有 期雇用 労働者 のうち, 雇用契 約期間 が一年 以上, かつフル タイム 勤務相 当の者 (d)	D修了 者のう ち満期 退学者 (再 掲)	就職者 (再 掲)の 合計= (a, b, c, d)	進学者 +就職 者の合 計②	②進学 者+就 職者/ ①D修 了者の 割合
												「進学者」のうち 就職している者 (c)							
令和4年3月	農学	農学	64	—	—	30	16	2	—	16	—	—	—	16	8	46	46	71.9%	
令和4年3月	農学	農芸化学	14	—	—	2	3	—	—	9	—	—	—	3	1	5	5	35.7%	
令和4年3月	農学	農業工学	24	5	—	10	—	—	—	9	—	—	—	—	4	10	15	62.5%	
令和4年3月	農学	農業経済学	25	—	1	8	6	—	—	10	—	—	—	5	4	14	14	56.0%	
令和4年3月	農学	林学	25	—	1	7	9	—	—	8	—	—	—	5	1	13	13	52.0%	
令和4年3月	農学	獣医学畜産学	124	—	3	71	20	2	—	28	—	—	—	16	20	90	90	72.6%	
令和4年3月	農学	水産学	32	—	—	11	9	—	—	12	—	—	—	8	5	19	19	59.4%	
令和4年3月	農学	その他	515	16	7	211	113	6	2	159	1	—	1	84	88	303	319	61.9%	
令和4年3月	農学	計	823	21	12	350	176	10	2	251	1	—	1	137	131	500	521	63.3%	

出典：学校基本調査

摂南大学大学院
農学研究科（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和5年1月31日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 調査概要	P 3
2. 集計表	P 4
3. 結果の要点	P 6
4. クロス集計	P 7

(添付資料)

摂南大学大学院農学研究科（仮称）

採用意向アンケート調査用紙（設問）

採用意向アンケート調査用紙（概要）

1. 調査概要

調査目的	「摂南大学大学院農学研究科(仮称)」(令和6年度に設置予定)における修了後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	農学研究科の修了卒業後に採用が見込まれる以下の事業所 (業種) <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業・漁業・林業関係 ・ バイオ関係 ・ 化学関係 ・ 食品関係 ・ 飲食関係 ・ 農協・流通関係 ・ 栄養・医療関係 ・ 研究所等 (地域) 近畿地区を中心とし首都圏、中部地区等全国の事業所に依頼 (依頼件数) 合計: 1,000 事業所
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答事業所の基本情報(業種・所在地等) ・ 農学研究科 博士前期課程(仮称)修了生の採用意向 ・ 農学研究科 博士後期課程(仮称)修了生の採用意向
調査時期	令和4年11月～12月
調査方法	調査対象事業所の採用担当者に対しアンケートを郵送することにより実施
回収件数	有効回答数 199 件(配布 1,000 件に対し、回収率 19.9%)
調査結果の概要	(博士前期課程) <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用意向: 59 事業所 (29.6%) ・ 継続的な採用可能人数: 84 人 (博士後期課程) <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用意向: 27 事業所 (13.6%) ・ 継続的な採用可能人数: 37 人

2. 集計表

調査名称	摂南大学大学院農学研究科（仮称）採用意向アンケート調査	回収合計
集 計 表		199 件

問	設問	選択肢	回答数	割合
問1	貴事業所の所在地をお答えください。（択一）	1 大阪府	66	33.2%
		2 京都府	18	9.0%
		3 兵庫県	40	20.1%
		4 奈良県	10	5.0%
		5 和歌山県	14	7.0%
		6 滋賀県	19	9.5%
		7 三重県	12	6.0%
		8 関東地方	6	3.0%
		9 中部地方	3	1.5%
		10 その他	11	5.5%
			合計	199
問2	貴事業所の事業種をお答えください。（択一）	1 農業・漁業・林業関係	45	22.6%
		2 バイオ関係	5	2.5%
		3 化学関係	10	5.0%
		4 食品関係	62	31.2%
		5 飲食関係	12	6.0%
		6 農協・流通関係	21	10.6%
		7 栄養・医療関係	22	11.1%
		8 大学・学校・研究所等	5	2.5%
		9 その他	17	8.5%
			合計	199
問3	貴事業所の従業員規模をお答えください。（択一）	1 5名以下	26	13.1%
		2 6～50名	65	32.7%
		3 51～100名	15	7.5%
		4 101～300名	30	15.1%
		5 301名以上	63	31.7%
			合計	199
問4	貴事業所における農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズ（人材需要）についてお答えください。（択一）	1 農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズは高い	59	29.6%
		2 農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズは高くない	67	33.7%
		3 どちらとも言えない	73	36.7%
			合計	199

問5	貴事業所における農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズ（人材需要）についてお答えください。（択一）	1	農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズは高い	30	15.1%
		2	農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズは高くない	88	44.2%
		3	どちらとも言えない	81	40.7%
		合計		199	100.0%
問6	摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（択一）	1	人材ニーズは高い	100	50.3%
		2	人材ニーズは高くない	7	3.5%
		3	わからない	92	46.2%
		合計		199	100.0%
問7	摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科博士前期課程（仮称）が養成する人材（修士）を、貴事業所で採用したいと思われますか。（択一）	1	採用したい	59	29.6%
		2	採用しない	33	16.6%
		3	わからない	107	53.8%
		合計		199	100.0%
問8	【問7の「採用したい」回答者のみ】 （博士前期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、継続的に採用可能な人数についてお答えください。（択一）	1	1人	43	21.6%
		2	2人	7	3.5%
		3	3人以上	9	4.5%
		合計		59	29.6%
問9	摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科博士後期課程（仮称）が養成する人材（博士）を、貴事業所で採用したいと思われますか。（択一）	1	採用したい	27	13.6%
		2	採用しない	42	21.1%
		3	わからない	130	65.3%
		合計		199	100.0%
問10	【問9の「採用したい」回答者のみ】 （博士後期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、継続的に採用可能な人数についてお答えください。（択一）	1	1人	22	11.1%
		2	2人	0	0.0%
		3	3人以上	5	2.5%
		合計		27	13.6%

※「構成比」（％）はいずれも小数点第二位を四捨五入。

3. 結果の要点

要点 1) 農学系大学院修了生の(全般的)採用ニーズ

【結果】

(1) 修士人材: 59 事業所 (29.6%) から「農学系修士の採用ニーズは高い」との回答を得た(問 4)。

(2) 博士人材: 30 事業所 (15.1%) から「農学系博士の採用ニーズは高い」との回答を得た(問 5)。

本設問は本研究科だけでなく農学系大学院修了生の全般的な採用ニーズについて質問したものである。本調査の回答事業所の多くは民間企業であるため、博士人材についてはやや低い数値(15.1%)となっているが、それでも 15%の事業所から採用ニーズが確認できており、修士、博士とも一定の採用ニーズがあることが示された。

要点 2) 摂南大学大学院農学研究科(M・D)の養成する人材の社会的ニーズ

【結果】

100 事業所 (50.3%) から「本研究科で養成する人材の社会的ニーズは高い」との回答を得た(問 6)。

本研究科の養成する人材像について、約半数の事業所からその社会的ニーズについて肯定的な評価を得た。

要点 3) 摂南大学大学院農学研究科の修了生の採用意向

【結果】

(1) 博士前期課程

入学定員の 20 人に対し、59 事業所 (29.6%) から、「摂南大学大学院農学研究科 博士前期課程の養成人材(修士)を採用したい」の回答が示された(問 7)。その 59 事業所における継続的な採用可能人数の合計は、84 人(=1 人 x 43 事業所+2 人 x 7 事業所+3 人以上 x 9 事業所)となった(問 8)。

(2) 博士後期課程

入学定員の 3 人に対し、27 事業所 (13.6%) から、「摂南大学大学院農学研究科 博士後期課程の養成人材(博士)を採用したい」の回答が示された(問 9)。その 27 事業所における継続的な採用可能人数の合計は、37 人(=1 人 x 22 事業所+3 人以上 x 5 事業所)となった(問 10)。

本研究科の博士前期課程、博士後期課程とも、入学定員を大きく上回る継続的な採用意向を得た。

4. クロス集計

回答事業所の業種（問2）と採用意向（問7）（問9）のクロス集計は以下の通りである。

「採用したい」の回答数では、「食品」「農協・流通」「農業・漁業・林業」「化学関係」から多くの採用意向を得た。「採用したい」の割合では、「バイオ関係」「大学・学校・研究所」「化学関係」から高い割合の採用意向を得た。研究科全体として、いずれの業界からも満遍なく採用意向が寄せられていると言える。

	(問2) 事業所の業種	業種		(問7)採用したい(M)		(問9)採用したい(D)	
		回答件数	割合 n=199	回答件数	割合 n=各業種数	回答件数	割合 n=各業種数
1	農業・漁業・林業関係	45	22.6%	7	15.6%	0	0.0%
2	バイオ関係	5	2.5%	5	100.0%	5	100.0%
3	化学関係	10	5.0%	7	70.0%	2	20.0%
4	食品関係	62	31.2%	18	29.0%	6	9.7%
5	飲食関係	12	6.0%	4	33.3%	2	16.7%
6	農協・流通関係	21	10.6%	8	38.1%	4	19.0%
7	栄養・医療関係	22	11.1%	1	4.5%	0	0.0%
8	大学・学校・研究所等	5	2.5%	5	100.0%	5	100.0%
9	その他	17	8.5%	4	23.5%	3	17.6%
	合計	199	100.0%	59	29.6%	27	13.6%

以上



摂南大学大学院農学研究科農学専攻（仮称）

[博士前期課程・博士後期課程]

採用意向アンケート調査

アンケート対象：企業等事業所の人事・採用ご担当者様

摂南大学では2024（令和6）年4月に大学院農学研究科（仮称）の設置を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、企業等の皆さまから人材需要についてのご意見をお聞きし構想内容に反映したいと考えています。

本アンケートは無記名調査であり、事業所様の情報を収集し利用することはありません。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※別紙の摂南大学大学院農学研究科（仮称）の概要をご覧の上で、以下の設問にお答えください。

問1 貴事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県 三重県
 関東地方 中部地方 その他

問2 貴事業所の事業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 農業・漁業・林業関係 バイオ関係 化学関係 食品関係
 飲食関係 農協・流通関係 栄養・医療関係 大学・学校・研究所等
 その他

問3 貴事業所の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 5名以下 6～50名 51～100名 101～300名 301名以上

問4 貴事業所における農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズ（人材需要）についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズは高い 農学系大学院修了生（修士）の採用ニーズは高くない
 どちらとも言えない

問5 貴事業所における農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズ（人材需要）についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズは高い 農学系大学院修了生（博士）の採用ニーズは高くない
 どちらとも言えない





問 6 摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- 人材ニーズは高い 人材ニーズは高くない わからない

問 7 摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科博士前期課程（仮称）が養成する人材（修士）を、貴事業所で採用したいと思われませんか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- 採用したい 採用しない わからない

問 8 （博士前期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、継続的に採用可能な人数についてお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- 1人 2人 3人以上

問 9 摂南大学が設置構想中の大学院農学研究科博士後期課程（仮称）が養成する人材（博士）を、貴事業所で採用したいと思われませんか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- 採用したい 採用しない わからない

問 10 （博士後期課程の修了者を）「採用したい」と回答された場合、継続的に採用可能な人数についてお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- 1人 2人 3人以上

問 11 設置構想中の摂南大学大学院農学研究科（仮称）について期待される点、ご要望がございましたらご記入をお願いします。

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



研究科の概要

研究科名称 : 農学研究科農学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称）
 入学定員 : 博士前期課程（2年） 20人
 博士後期課程（3年） 3人
 学位名称 : 博士前期課程 修士（農学）
 博士後期課程 博士（農学）
 設置位置 : 摂南大学枚方キャンパス 大阪府枚方市長尾峠町45-1
 取得可能資格（予定） : 中学校教諭専修免許状（理科）
 高等学校教諭専修免許状（理科）

農学研究科の目的

農学研究科農学専攻は、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や地域社会および国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とします。

博士前期課程

【養成人材像】

博士前期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や企業、公共団体などの発展に貢献するための研究能力と実践力を備えた高度専門職業人を養成します。

【カリキュラム】

共通科目を設定し、現在および将来の食と農の諸問題について幅広い知識を身につけるとともに、英語コミュニケーション、サイエンスプレゼンテーション、データ解析などの高度な能力を修得する科目を設置します。また各領域において専門的な特論科目を体系的に開講します。

【社会人の受け入れ】

摂南大学農学研究科では、博士前期課程、博士後期課程ともに社会人を積極的に受け入れます。働きながら就学する学生のために長期履修制度を設けます。また各種奨学金（給付・貸与）も整備しています。

【先端アグリ研究所】

農学部設置された先端アグリ研究所では、大学・研究機関および産業界と連携した独創的なプロジェクト研究を実施するとともに、摂大農学セミナーを通じて研究情報を広く社会発信しています。

研究科の特色

博士後期課程

【養成人材像】

博士後期課程では、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を深く修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や学問の深化と発展に貢献するための自立した研究遂行力を備えた高度な専門技術者および研究者を養成します。

【カリキュラム】

共通科目である「食農科学特別講義」で博士後期課程における研究の基盤となる農学の専門知識を身につけ、専攻する領域の特別演習、特別研究において研究活動を推進し、博士論文の完成を目指します。

研究科の領域

農学研究科では、以下の4領域においてそれぞれの分野における専門性の高い研究活動、研究指導を行います。

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
植物遺伝育種科学 生産生態基盤学 作物科学 園芸科学 植物病理学 応用昆虫学 等	植物分子生理学 ゲノム生物学 植物環境微生物学 応用微生物学 動物機能科学 海洋生物学 等	食品学・食品衛生学 調理学・給食経営管理 代謝栄養学 臨床栄養学 公衆衛生・公衆栄養学 生化学・運動生理学 等	食料農業政策学 農業経済経営学 食品産業論 農畜水産物・食品マーケティング論 食農共生学 食農教育学 等

修了後の進路

博士前期

- ・研究職、専門職、技術職（食・農・栄養関係企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）
- ・病院、給食施設等（管理栄養士）
- ・教員（中学・高校）
- ・博士後期課程進学

後博士

- ・大学教員、高等専門学校教員
- ・研究職（研究機関、企業等）
- ・研究職、技術職（公務員）

アクセス（摂南大学枚方キャンパス）

- 京阪本線「樟葉」駅（京橋駅から特急で20分）からバスで約10分
- JR学研都市線「松井山手」駅（京橋駅から快速で30分）からバスで約10分



初年度学納金（予定）（※他大学からの入学者）

摂南大学大学院農学研究科	入学金	授業料等	初年度納入金
博士前期課程	150,000円	950,000円	1,100,000円
博士後期課程	220,000円	900,000円	1,120,000円

※摂南大学大学院では、日本学生支援機構奨学金・高等教育の修学支援制度・摂南大学学内一般奨学金・民間団体や地方自治体等の奨学金により、給付または貸与の奨学金制度を提供しています。

【参考】他の農学系研究科の学納金 [2022年度入学者（他大学出身者）]

研究科名称	入学金	授業料等	初年度納入金
近畿大学大学院農学研究科	200,000円	950,000円	1,150,000円
龍谷大学大学院農学研究科	200,000円	954,600円	1,154,600円



2020年完成の農学部・農学研究科の専用棟で、充実した実験機器や農場施設を整備しており、4領域の幅広く深い研究が可能です。

農学研究科のカリキュラム

博士前期課程	博士後期課程																
共通科目	講義科目																
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">農業生産科学領域</td> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">特論科目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">応用生物科学領域</td> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">演習科目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">食品栄養科学領域</td> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">特論科目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">食農ビジネス学領域</td> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">演習科目</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">特別研究（研究指導）</td> <td style="background-color: #e67e22; color: white;">特別研究（研究指導）</td> </tr> </table>	農業生産科学領域	特論科目	応用生物科学領域	演習科目	食品栄養科学領域	特論科目	食農ビジネス学領域	演習科目	特別研究（研究指導）	特別研究（研究指導）	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="5" style="background-color: #2980b9; color: white; vertical-align: middle;">演習科目・特別研究科目</td> <td style="background-color: #2980b9; color: white;">農業生産科学特別演習</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #2980b9; color: white;">応用生物科学特別演習</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #2980b9; color: white;">食品栄養科学特別演習</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #2980b9; color: white;">食農ビジネス学特別演習</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #2980b9; color: white;">特別研究（研究指導）</td> </tr> </table>	演習科目・特別研究科目	農業生産科学特別演習	応用生物科学特別演習	食品栄養科学特別演習	食農ビジネス学特別演習	特別研究（研究指導）
農業生産科学領域	特論科目																
応用生物科学領域	演習科目																
食品栄養科学領域	特論科目																
食農ビジネス学領域	演習科目																
特別研究（研究指導）	特別研究（研究指導）																
演習科目・特別研究科目	農業生産科学特別演習																
	応用生物科学特別演習																
	食品栄養科学特別演習																
	食農ビジネス学特別演習																
	特別研究（研究指導）																

農学研究科の具体的な研究内容（一部抜粋・予定）

農業生産科学領域	応用生物科学領域	食品栄養科学領域	食農ビジネス学領域
<ul style="list-style-type: none"> ・イモ類・マメ類・穀類における形態とその機能、外環境に対する応答、成長などについての研究 ・養液栽培の生産効率の向上と養液栽培技術の新展開 ・ヒトと異なる体の構造を持つムシたちの内分泌機構、特に解毒や脂質代謝のメカニズムの探索 ・有用微生物の隠された能力の解明による、植物の病気を防ぐ新たな微生物農業の提案 ・環境刺激に応答した転写開始点の変化によって生じる未知のタンパク質アイソフォームの機能を利用した新規育種技術の開発 ・土壌の生産力や環境の評価法をより洗練して、土壌が持つ能力を最大限に引き出す研究 ・交雑育種の遺伝的変異拡大、イネ減数分裂期の乗換頻度の遺伝的改変、塩基レベルでの解像度を達成したマップ構築、新規育種素材の探索 ・農作物の収量を著しく減損させることがある「害虫」について深く知り、新しい害虫管理技術への応用を考える研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム進化の原理の探求、ゲノム育種・ゲノム視点からの環境アセスメント ・光合成生物における光合成制御メカニズムの解明を介した有用遺伝子の提示と作物への応用 ・プログラム可能なスプライシング制御RNAの開発 ・ヒトや動物の腸の機能・役割の多角的・多面的な研究 ・生態学、生化学、遺伝学の手法を用いて、水圏に生きる生物を理解し、適切な利用と保全を目指す ・植物の生理生長を促す共生・寄生性糸状菌を持つ、植物生長制御メカニズムの解明と応用研究 ・糸状菌の生産する生物活性物質の生合成機構解析と新規機能分子の探索 ・RNAゲノムをもつ植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と、植物ウイルスに対する新しい防除技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護および介護予防における食品および調理の提案、さらに介護食への転換 ・新しい健康調理方法の開発、調理条件により変化する食材の栄養素・嗜好性・生体調整機能の解明 ・あまり知られていない食材や、廃棄されていた食品成分を有効活用することによる健康で環境に優しい食生活の提案 ・栄養介入による疾患改善、フレイル予防など高齢者の健康寿命延伸のための研究 ・食品の安全を守る分析手法の開発、食品衛生管理システム構築、未承認医薬品・健康食品の該当性判断、食品の安全教育手法の開発 ・アスリートのパフォーマンス向上を目指した脂質の機能探求、栄養×スポーツが睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響の解明 ・給食現場からの新しい調理技術・配膳方法の提案、さらに在宅へ拡大 ・行政計画策定時の健康課題や解決に向けた提案、特産品を使った商品開発による地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物工場の生産性向上・全国展開と消費者の購買行動の変化によって生じる需給ギャップの解消 ・withコロナ時代における食料流通システムのあり方に関する実証研究 ・アジアやアフリカの小規模農民（社会的弱者層）の支援および日本国内の地域活性化に向けた実践技術や開発アプローチの提案と案件形成 ・生鮮農水産物流通において欠かすことができない卸売市場の活性化の方策の探究 ・食・農・環境に関する知識習得や体験、それを活かしたまちづくりへの参画等を通して、地球環境と調和のとれた社会システムの構築の研究 ・食の生産と消費を通じた社会的課題の解決を目指すオーガニック等のサステナブルな食の取り組みに関する流通・消費・政策の研究 ・食料自給率が低い日本における、安全で安心な食料を安定的に確保するため、農業のリスクを適切に管理できる効果的なセーフティネット政策の研究